

科目名

人間研究

《2単位(講義)／幼児保育学科2年後期／選択必修》

担当者

山本八重子

実務経験

授業の概要

青少年の時期は、自分を取り巻く世界との接触によって心身ともに大きく成長し変化する。本講義では、人と人、人と社会との関係などについて、さまざまな分野から切り込み、八代に関係ある実在した人物及び児童文学等に登場した人物像に焦点を当て、人間の生き方及び人間関係や社会生活のあり方について考えさせる。また、グループで活動したり、意見を発表する場を設けたりして多面的な展開の中で自分自身の生活を振り返らせる。

到達目標

本講義で学んだことを自分なりに工夫してノートにまとめ、自己理解、他者理解、人間理解を深めることができる。人の考えを聞いたり、自分の考えを伝えたりして主体的な活動ができるようにする。

事前事後学習

ノートは必ず持参し配布されたプリントは糊づけすること。また、5回と10回は終了後ノートを提出すること。社会人になってもノートを身近に置き参考にするよう心掛けること。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
I	保育者としての基礎的教養の修得	
II	保育者としての基礎的技能の修得	
III	保育及び援助の目的の理解	
IV	保育及び援助の対象の理解	
V	保育及び援助の方法の理解	

授業実施方法

	講義	演習	実験	実習	実技
	○				
試験実施の有無	実施する	実施しない			
		○			

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	オリエンテーション(授業内容の説明)
2		2	君はどう生きるか
3		3	芥川龍之介『蜘蛛の糸』に学ぶ
4		4	芥川龍之介『蜘蛛の糸』に学ぶ
5		5	浜田廣介『泣いたあかおに』に学ぶ
6		6	学長「中川静也先生」に学ぶ
7		7	学長「中川静也先生」に学ぶ
8		8	逆境を生きる農聖松田喜一氏に学ぶ
9		9	逆境を生きる農聖松田喜一氏に学ぶ
10		0	逆境を生きる農聖松田喜一氏に学ぶ
11		11	坂本村出身 谷口巳一郎氏に学ぶ
12		12	偉人のうち一人を決めて調べまとめる
13		13	まとめたことを発表する 小論文の課題
14		14	課題提出
15		15	講義のまとめ

授業外学習内容とその時間			
課題のフィードバック方法	課題について小論文にまとめた作品を添削して返却する。		
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験		ディスカッション	有
レポート	60%	プレゼンテーション	有
小テスト		スピーチ	有
発表(プレゼン・スピーチ等)	20%	ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	20%	教室外学習	
その他		その他	

テキスト	随時提示 『逆境を生きる 農聖 松田喜一に学ぶ』
参考文献・推薦図書	新聞 コラム提示 『わたくしの教育に想う寄り添い支え合って』
関連のある授業科目	
資格等	幼稚園教諭2種免許

科目名

心理学

《2単位(講義)／幼児保育学科2年前期》／選択必修

担当者

坂本哲朗

実務経験

授業の概要

「かつて大人は子どもであった」のだから、振り返れば分かることもあるかもしれない。子どもの成長に関わろうとする若者たちの今の心は、日々どのように揺れ動いているのだろうか。本授業では、個人の心理や言動を社会との関係において解明し、心地よく生きる道筋を探究する。家族心理学、教育心理学、社会心理学などから幅広く学ぶ中で、自他の理解を深め生き抜く知恵を学び合う。また、「人はなぜいじめるのか」の緊急かつ大命題の理解と解決への方策に迫る。

到達目標

- ・心についての一般的知識を得て整理することができる。
- ・ペアから始まり、集団での交流活動で積極的に参加することができる。
- ・心に関わる各種情報に関心を持ち、学習課題に活用することができる。
- ・自己の特長を最大に発揮し、意見発表や討論協議ができる。

事前事後学習

心の問題について日常的に関心を持ち、ノートに切り抜きやメモをしておく。
緊急に解決すべき課題が発生した場合の解決策として、身近な人、物、事との絆づくりを進める。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
Ⅰ	保育者としての基礎的な教養の修得	○
Ⅱ	保育者としての基礎的な技能の修得	
Ⅲ	保育及び援助の目的の理解	
Ⅳ	保育及び援助の対象の理解	
Ⅴ	保育及び援助の方法の理解	

授業実施方法

講義	演習	実験	実習	実技
○				
実施する	実施しない			
	○			

試験実施の有無

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション。幼稚園の砂場で学んだこととは	1	
2	本当の私とはⅠ 自尊感情	2	
3	本当の私とはⅡ 感情と健康	3	
4	相手と親しくするにはⅠ コミュニケーション	4	
5	相手と親しくするにはⅡ 依頼と承諾	5	
6	もて男、もて女であるにはⅠ 恋愛の法則	6	
7	もて男、もて女であるにはⅡ 恋愛の進展	7	
8	みんなの力で達成するにはⅠ 集団の力	8	
9	みんなの力で達成するにはⅡ 組織の力	9	
10	見えない情報圧力とはⅠ 消費行動	10	
11	見えない情報圧力とはⅡ 群衆心理	11	
12	ストレス社会をしなやかにⅠ ケータイ、ネット依存	12	
13	ストレス社会をしなやかにⅡ いじめ	13	
14	小論文作成	14	
15	小論文発表会・意見交流	15	

授業外学習内容とその時間	新聞やメディアなどを活用し、時事問題に着目。 ノートに記録し、講義内活動に活用。		
課題のフィードバック方法	毎回の講義内容について、自らの思考判断を10分で400時に表現する。 質問等については、次回までに個別または全体に指導する。		
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験		ディスカッション	有
レポート	45%	プレゼンテーション	有
小テスト		スピーチ	有
発表(プレゼン・スピーチ等)	10%	ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	45%	教室外学習	
その他		その他	

テキスト	随時、資料を配布する。
参考文献・推薦図書	「本当にわかる心理学」植木理恵著 日本実業出版社、「よくわかる社会心理学」小口孝司著 ナツメ社
関連のある授業科目	
資格等	なし

科目名

日本国憲法

《2単位(講義)／幼児保育学科2年後期／選択必修》

担当者

富 晃之介

実務経験

授業の概要

日本国憲法の基本構造、基本原理等について講義。
幼稚園教諭免許の取得後、身近に感じられるような判例を中心に講義。

到達目標

経済的、政治的状況の変化に応じ憲法意識が変化している今日において、
憲法を学ぶことで、自分の考え方をしっかりとめるようになる。

事前事後学習

事前学習として、毎授業前に必ず当該箇所の条文を読んでおくこと。
事後学習として、レジュメ及びノートに目を通し、復習を行うこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
I	保育者としての基礎的教養の修得	
II	保育者としての基礎的技能の修得	
III	保育及び援助の目的の理解	
IV	保育及び援助の対象の理解	
V	保育及び援助の方法の理解	

授業実施方法	講義	演習	実験	実習	実技
	○				
試験実施の有無	実施する	実施しない			
	○				

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	法の意義
2		2	日本国憲法の歴史
3		3	憲法9条
4		4	人権の享有主体性
5		5	幸福追求権と法のもとの平等
6		6	思想良心の自由と表現の自由
7		7	表現の自由
8		8	経済的自由権
9		9	社会権
10		10	人身の自由
11		11	人権のまとめ
12		12	国会
13		13	裁判所
14		14	内閣
15		15	憲法まとめ

授業外学習内容とその時間	授業前予習30分、復習30分			
課題のフィードバック方法	毎回講義の後半に問題を出し、答えを講義する。			
成績評価方法	評価割合		アクティブラーニング	有無
定期試験	70%		ディスカッション	
レポート			プレゼンテーション	
小テスト	15%		スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)			ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	15%		教室外学習	
その他			その他 ケースメソッド	有

テキスト	講義毎にレジユメを作成して配布
参考文献・推薦図書	「基本法学入門」蓮井良憲・畑博之 有信堂高文社
関連のある授業科目	教育制度論
資格等	幼稚園教諭二種免許

科目名

情報機器演習

《2単位(演習)／幼児保育学科2年通年／幼免必修》【2クラス開講】

担当者

村上幸生

実務経験

授業の概要

Windows10およびOffice2016を利用し、コンピュータの基本的な知識を学ぶとともにWord、Excel、PowerPointの基本操作の解説と演習を行うことにより、保育者として身につけておくべき情報機器操作技術を習得する。

到達目標

コンピュータの基本的な操作とオフィススイートの操作ができる。また、インターネットおよびスマートフォンを利用した基本的な情報処理操作ができる。

事前事後学習

演習中に行う演習については、時間内に終わらない場合は必ず次の演習までに終えておくこと。また、数回の課題提出をもらうので必ず提出すること。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
I	保育者としての基礎的教養の修得	
II	保育者としての基礎的技能の修得	
III	保育及び援助の目的の理解	
IV	保育及び援助の対象の理解	
V	保育及び援助の方法の理解	○

授業実施方法	講義	演習	実験	実習	実技
			○		
試験実施の有無	実施する	実施しない			
		○			

授業計画(項目・内容)

回	前期・後期 (※1クラス半期30コマ)	回	前期・後期 (※1クラス半期30コマ)
1	パソコンの基礎知識・基礎操作	16	Word 園だよりの作成4
2		17	Excel 簡単な表の作成、よく利用する関数の使い方
3	インターネット、eメール、スマートフォンなど	18	
4		19	Excel 児童台帳の作成、データベース機能の活用
5	Word 文章の入力・文字の装飾	20	
6		21	PowerPoint プレゼンテーションの作成1
7	Word 基本的なビジネス文書	22	
8		23	PowerPoint プレゼンテーションの作成2
9	Word 園だよりの作成1	24	
10		25	PowerPoint プレゼンテーションの作成3
11	Word 園だよりの作成2	26	
12		27	動画の作成1
13	Word 園だよりの作成3	28	
14		29	動画の作成2
15	Word 園だよりの作成4	30	

授業外学習内容とその時間	学習支援ポータルを利用して講義前に予習、講義後に復習それぞれ30分			
課題のフィードバック方法	学習支援ポータルを利用して行う。			
成績評価方法	評価割合		アクティブラーニング	有無
定期試験			ディスカッション	
レポート			プレゼンテーション	
小テスト			スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)			ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	30%		教室外学習	
その他(演習課題)	70%		その他	

テキスト	学習支援ポータル上に配置
参考文献・推薦図書	学習支援ポータル上で紹介
関連のある授業科目	
資格等	幼稚園教諭二種免許

科目名

外国語コミュニケーション

《2単位(講義)／幼児保育学科1年前期／卒業必修》

担当者

村橋 哲也

実務経験

授業の概要

保育現場でよく使う単語や語句、表現を豊富に使い、より現場に則した対話練習や、園児および保護者への英語での対応演習を各週のトピックに合わせて行う。また、保育現場で役立つ英語を使った遊びなども授業の中に織り交ぜて実施する。

到達目標

保育現場で役立つ英会話を保育英検2級程度の能力まで高める。

事前事後学習

学習予定範囲の単語や表現などを予め調べておく。出題されている設問の解答準備をしておく。授業後は学習したポイントを繰り返し復習し、確認テストなどに備える。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のI～Vの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
I	保育者としての基礎的教養の修得	○
II	保育者としての基礎的技能の修得	
III	保育及び援助の目的の理解	
IV	保育及び援助の対象の理解	
V	保育及び援助の方法の理解	

授業実施方法	講義	演習	実験	実習	実技
	○				
試験実施の有無	実施する	実施しない			
	○				

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	
1	保育の英会話への第一歩	16	保育室の中
2	みなと保育園ようこそ!	17	園児の持ち物
3	時間と数	18	園庭の道具
4	地図と道案内	19	天気
5	クラスメイトとの出会い	20	園児の遊び
6	デイヴィーの登園と降園	21	感情と体調
7	保育者の仕事	22	ランチタイム
8	手を洗いましょう	23	ランチの献立
9	排泄に関する会話	24	連絡帳
10	けんか	25	身体の部位
11	けがと病気	26	救急処置
12	電話での対応	27	電話の対応
13	遠足	28	留守番電話
14	赤ちゃんのケア	29	年間行事予定
15	卒園	30	育児用品

授業外学習内容とその時間			
課題のフィードバック方法			
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験	70%	ディスカッション	
レポート		プレゼンテーション	
小テスト		スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	30%	教室外学習	
その他		その他	

テキスト	保育の英会話 Childcare English
参考文献・推薦図書	
関連のある授業科目	海外研修
資格等	幼稚園免許二種免許・保育士資格

科目名

体育実技

《1単位(実技)／幼児保育学科1年前期／必修》

担当者

小林宜義

実務経験

健康運動指導士会依頼講師

授業の概要

近年、ヘルスプロモーションへの関心が高まっております。この講義では、運動に親しむ資質や体力・運動能力を楽しみながら取り組めることで注目されているコーディネーション運動を通じて、人間が生きる上で最大のルーツとなる根源的な能力である5つの基礎コーディネーション能力を高め、生涯に渡って運動に取り組む資質を高めていきます。

到達目標

運動に親しむ資質を高め、将来に渡って運動する習慣を身につける。

事前事後学習

運動課題を提出します。課題が達成せきるよう事前事後で練習に取り組んで下さい。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	他者とのコミュニケーション力	○
3	自分の考えを表現する力	
4	健康に対する理解	○
5	社会における健康の役割	
6	身近な健康に対する基本的な理解	
7	コーディネーション能力	
8	スピード能力	
9	持久能力	
10	ちから能力	

授業実施方法

講義	演習	実験	実習	実技
				○

試験実施の有無

実施する	実施しない
○	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション	1	
2	主としてリズム能力を高める運動①	2	
3	主としてリズム能力を高める運動②	3	
4	主として反応能力を高める運動①	4	
5	主として反応能力を高める運動②	5	
6	これまでの振り返り①	6	
7	主として空間定位能力を高める運動①	7	
8	主として空間定位能力を高める運動②	8	
9	主として感覚的分化能力を高める運動①	9	
10	主として感覚的分化能力を高める運動②	10	
11	これまでの振り返り②	11	
12	主としてバランス能力を高める運動①	12	
13	主としてバランス能力を高める運動②	13	
14	総合的にコーディネーション能力を高める運動	14	
15	まとめ	15	

授業外学習内容とその時間	講義中に運動課題を指示します。それらの課題を予習・復習をして下さい。授業外学習時間としては、1回の講義あたり30分程度を目安として予習・復習等をして下さい。		
課題のフィードバック方法	運動課題に関しては、適宜アドバイスをいたします。アドバイスに基づいて学習をして下さい。		
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験	50%	ディスカッション	有
レポート		プレゼンテーション	
小テスト		スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	50%	教室外学習	
その他		その他	

テキスト	なし
参考文献・推薦図書	北大路書房:デジタル社会の子どもの育ちを支える「保育内容健康」第15章:多様な動きを経験するコーディネーション運動
関連のある授業科目	体育講義
資格等	幼稚園教諭2種免許・保育士資格

科目名

体育講義

《2単位(講義)／幼児保育学科1年後期／幼稚園教諭必修・保育士選択必修》

担当者

小林宜義

実務経験

健康運動指導士会依頼講師

授業の概要

近年、医療費が増加しております。この講義では、心身の健康に及ぼす病気について理解を深めると共に、それらを未然に防ぐヘルスプロモーションについて理解を深めていきます。

到達目標

心身の健康について理解を深め、ヘルスプロモーションに取り組んでいくことができる。

事前事後学習

毎回講義のレジメを配布します。それらを利用して事前・事後学習をして下さい。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活における健康概念の習得	○
2	ヘルスプロモーション力	○
3	ダイエットに対する理解	
4	メタボリックシンドロームに対する理解	
5	高血圧に対する理解	
6	脂質異常症に対する理解	
7	加齢に対する理解	
8	ロコモティブシンドロームに対する理解	
9	ストレスに対する理解	
10	年代別における健康の格差に対する理解	

授業実施方法

講義

演習

実験

実習

実技

○

試験実施の有無

実施する

実施しない

○

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
		1	オリエンテーション
		2	ライフスタイルと健康
		3	生活習慣病について
		4	脂肪燃焼(ダイエット)について①
		5	脂肪燃焼(ダイエット)について②
		6	肥満について
		7	これまでの振り返り
		8	加齢について
		9	様々な環境下で安全に運動を行う
		10	ストレスと運動
		11	健康の概念について
		12	自身の運動能力を理解する
		13	これまでの振り返り②
		14	これまでの振り返り③
		15	講義のまとめ

授業外学習内容とその時間	講義ごとにレジメを配布します。それらを利用して予習・復習をして下さい。授業外学習時間としては、1回の講義あたり30分程度を目安として予習・復習等をして下さい。		
課題のフィードバック方法	提出されたレポートを添削します。その内容について理解を深めて下さい。□		
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験	50%	ディスカッション	有
レポート	20%	プレゼンテーション	
小テスト		スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	有
平常点・授業への貢献度	30%	教室外学習	
その他		その他	

テキスト	随時資料を配布する。
参考文献・推薦図書	
関連のある授業科目	体育実技
資格等	幼稚園教諭2種免許・保育士資格□

科目名

基礎ゼミA

《1単位(演習)／幼児保育学科1年前期／卒業必修》

担当者

幼児保育学科教員

実務経験

授業の概要

「大学での学び方」「保育用語」「ゼミ別研究」「保育学生としての学び」においては、基礎学力を高め、自ら考え表現する方法を学ぶ。様々な演習を通して社会人・保育者としての資質・知識・技術を磨いていく。

到達目標

本演習では、大学生・保育者として必要な素養を身につける事を目指し、学習・実習・就職活動に対する意識向上をはかる。

事前事後学習

授業教科書、資料などを授業前後にしっかり読み、学習に臨む。またゼミにおける課題について自分なりに情報収集・整理が求められる。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のI～Vの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている	
5	保育者としての基礎的教養の修得	
6	保育者としての基礎的技能の修得	
7	保育及び援助の目的の理解	
8	保育及び援助の対象の理解	
9	保育及び援助の方法の理解	○

授業実施方法

講義	演習	実験	実習	実技
○	○			○

試験実施の有無

実施する	実施しない
	○

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション・大学での学び①(ガイダンス)	16	
2	大学での学び②(マナー・生活編)	17	
3	日本語文章スキルアップ①	18	
4	日本語文章スキルアップ②	19	
5	保育学生としての学び①(マナー)	20	
6	ゼミ別研究・学びのスキルアップ①	21	
7	保育用語 I	22	
8	保育学生としての学び②(マナー)	23	
9	ゼミ別研究・学びのスキルアップ②	24	
10	保育用語 II	25	
11	ゼミ別研究・学びのスキルアップ③	26	
12	ゼミ別研究・学びのスキルアップ④	27	
13	ゼミ別研究・学びのスキルアップ⑤	28	
14	キャンパスライフ(共同企画①)	29	
15	学習のまとめ	30	

授業外学習内容とその時間	事前課題などの予習及び、事後の復習を行う。事前にアナウンスされた内容のものを準備しておくこと。		
課題のフィードバック方法	配布された資料の整理及び、指定される期日までに記入する。		
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験		ディスカッション	有
レポート	30%	プレゼンテーション	有
小テスト	30%	スピーチ	有
発表(プレゼン・スピーチ等)	20%	ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	20%	教室外学習	
その他(課題等提出物)	20%	その他	

テキスト	適宜資料を配布する
参考文献・推薦図書	「大学生の日本語トレーニング」世界思想社 その他、適宜紹介する。
関連のある授業科目	キャリアスタディ、卒業研究等
資格等	

科目名

基礎ゼミB

《1単位(演習)／幼児保育学科1年後期／卒業必修》

担当者

幼児保育学科教員

実務経験

授業の概要

「保育用語」「ゼミ別研究」「保育学生としての学び」においては、基礎学力を高め、自ら考え表現する方法を学ぶ。「地域ボランティア」は、地域清掃活動を行い、地域の環境の実態を知り、社会貢献を目指す。また「専門職ガイダンス」では、保育・教育分野に限らず、様々な領域の外部講師をお招きし、最新状況についてお話していただく。以上のような様々な演習を通して社会人・保育者としての資質・知識・技術を磨いていく。

到達目標

本演習では、大学生・保育者にとって必要な素養を身につける事を目指し、学習・実習・就職活動に対する意識向上をはかる。

事前事後学習

授業教科書、資料などを授業前後にしっかり読み、学習に臨む。またゼミにおける課題について自分なりに情報収集・整理が求められる。

ディプロマポリシーに係る学習成果		学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のI～Vの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている	
5	保育者としての基礎的な教養の修得	
6	保育者としての基礎的な技能の修得	
7	保育及び援助の目的の理解	
8	保育及び援助の対象の理解	
9	保育及び援助の方法の理解	○

授業実施方法

講義	演習	実験	実習	実技
○	○			○
実施する	実施しない			
	○			

試験実施の有無

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		16	観察実習オリエンテーション
2		17	観察実習
3		18	観察実習まとめ(お礼状作成等)
4		19	キャンパスライフ(共同企画②)
5		20	地域ボランティア①(学内外清掃活動等)
6		21	保育用語 I
7		22	ゼミ別研究・学びのスキルアップ①
8		23	専門職ガイダンス①
9		24	保育用語 II
10		25	保育学生としての学び
11		26	ゼミ別研究・学びのスキルアップ②
12		27	保育用語 III
13		28	ゼミ別研究・学びのスキルアップ③
14		29	専門職ガイダンス②
15		30	学習のまとめ

授業外学習内容とその時間	事前課題などの予習及び、事後の復習を行う。事前にアナウンスされた内容のものを準備しておくこと。		
課題のフィードバック方法	配布された資料の整理及び、指定される期日までに記入する。		
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験		ディスカッション	有
レポート	30%	プレゼンテーション	有
小テスト	30%	スピーチ	有
発表(プレゼン・スピーチ等)	20%	ロールプレイ	有
平常点・授業への貢献度	20%	教室外学習	有
その他(課題等提出物)	20%	その他	

テキスト	適宜資料を配布する
参考文献・推薦図書	「大学生の日本語トレーニング」世界思想社 その他、適宜紹介する。
関連のある授業科目	キャリアスタディ、卒業研究等
資格等	

科目名

キャリアスタディ

《1単位(演習)／幼児保育学科2年前期／卒業必修》

担当者

幼児保育学科教員

実務経験

授業の概要

本演習は保育士、幼稚園教諭、福祉施設職員としての資質や能力及び倫理観を育成し、保育等の現場で力を発揮できる人材を育成することを第一の目的である。その目的達成のため、これまでの学習の省察、マナー・生活態度など社会人としての基本的姿勢の形成、漢字テストや文章作成技術等基礎学力の強化などを図る。また各種ガイダンスにおいては、保育・教育等の就業意識を深め、実践的な就職スキル向上を目指す。

到達目標

- ・現場で活躍できる保育士・教諭等としての資質・能力・倫理観等を習得する。
- ・保育技術など保育実践で活用できる専門的な知識・技術を習得する。
- ・就職活動経験を通し、社会人としてのマナーや成果態度を習得する。
- ・キャリア意識の形成など、幅広い視野、将来の展望について説明できる。

事前事後学習

提示する資料などを授業前後にしっかり読み、学習に臨むこと。講義を通じて、社会の動向を察知し、社会人に求められる職業倫理への意識を高めてほしい。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている	
5	保育者としての基礎的な教養の修得	
6	保育者としての基礎的な技能の修得	
7	保育及び援助の目的の理解	
8	保育及び援助の対象の理解	
9	保育及び援助の方法の理解	○

授業実施方法

講義	演習	実験	実習	実技
○	○			○

試験実施の有無

実施する	実施しない
	○

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション	16	
2	就職につながる大学での学び(学習・生活面等)	17	
3	キャリアデザインを描く	18	
4	社会人の私を描く	19	
5	社会人に求められる人材とは	20	
6	就職ガイダンス①	21	
7	就職ガイダンス②	22	
8	キャリアを築く自己の振り返り	23	
9	専門職ガイダンス①	24	
10	専門職ガイダンス②	25	
11	就職活動(自主実習)の流れと求人票の見方	26	
12	就職までのスケジュール	27	
13	履歴書作成について①	28	
14	履歴書作成について②	29	
15	学習のまとめ	30	

授業外学習内容とその時間	事前学習では、自身の職歴・学歴、資格などを正確に調べて整理しておいてください。また、分からない専門用語などは、事前に調べておいてください。
課題のフィードバック方法	配布された資料の整理及び、指定される期日までに記入する。

成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験		ディスカッション	有
レポート	40%	プレゼンテーション	
小テスト	30%	スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	有
平常点・授業への貢献度	30%	教室外学習	有
その他		その他	

テキスト	適宜資料を配布する。
参考文献・推薦図書	紙透雅子編「保育の道をめざす人へのアドバイス 改訂版 養成校での学び方から就職活動まで」みらい、2016年。
関連のある授業科目	卒業、幼稚園教諭二種免許・保育士資格を得る上での、必修科目と関連する
資格等	保育士資格・幼稚園教諭二種免許

科目名

基礎音楽A

《1単位(演習)／幼児保育学科1, 2年前期／選択》【2クラス開講】

担当者

赤峯美津子・間真惟子・松岡美羽・三浦栄子・山田倫子

実務経験

授業の概要

「保育表現技術」における「基礎音楽」の授業は、子どもの遊びや保育環境を豊かにするために必要な音楽表現に関する知識や技術を習得することを目標とする。
感性豊かな保育者を育成するためには、様々な音楽に興味関心を持ち主体的に取り組む学びの姿勢も求められる。子どもの発達や保育の環境・内容について理解しながら、豊かな感性や創造性を養うための音楽表現の実践とその展開方法を学ぶ。音楽表現に必要な基礎的知識や技術を理解し習得しやすいよう、小人数編成の演習形式やピアノ個人レッスンを展開する。

到達目標

- ①子どもの歌や、ピアノ伴奏、弾き歌いなど基礎的な音楽表現技術を理解し習得する。
- ②歌やピアノ実技などの実践・活動に繋げる音楽表現の基礎的知識を習得し、読譜力を高める。

事前事後学習

週毎に示している課題曲の合格を目標とし、ピアノ練習等を毎日積み重ねることが基本である。また練習方法を随時工夫して人前での発表や実践の準備に取り組む。
毎回の授業の復習をし、目標課題の達成に努力を怠らないこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	左記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
Ⅰ	保育者としての基礎的教養の修得	
Ⅱ	保育者としての基礎的技能の修得	○
Ⅲ	保育及び援助の目的の理解	
Ⅳ	保育及び援助の対象の理解	
Ⅴ	保育及び援助の方法の理解	

授業実施方法

講義	演習	実験	実習	実技
	○			○
実施する	実施しない			
○				

試験実施の有無

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	前期オリエンテーション・ピアノ奏法および楽譜の理解(ハ長調1)	16	
2	ピアノ奏法および楽譜の理解(ハ長調2/音符と休符1)	17	
3	ピアノ奏法および楽譜の理解(ハ長調1/リズム1)	18	
4	ピアノ奏法および楽譜の理解(ハ長調2/音符と休符2)	19	
5	ピアノ奏法および楽譜の理解(ハ長調1/リズム2)	20	
6	ピアノ奏法および楽譜の理解(ハ長調2/音階と和音1)	21	
7	ピアノ奏法および楽譜の理解(ハ長調3/リズム3)	22	
8	ピアノ奏法および楽譜の理解(ハ長調4/試演会)	23	
9	ピアノ奏法および楽譜の理解(ハ長調5/リズム4)	24	
10	ピアノ奏法および楽譜の理解(ハ長調6/音階と和音2)	25	
11	ピアノ奏法および楽譜の理解(ハ長調7、ハ長調3/記号・楽語)	26	
12	ピアノ奏法および楽譜の理解(ハ長調8、ハ長調4/小テスト)	27	
13	前期課題発表のための選曲と奏法1	28	
14	前期課題発表のための奏法2(リハーサル)	29	
15	前期のまとめと振り返り	30	

授業外学習内容とその時間	レッスンにおいて、十分な練習がないまま受講することがあってはならない。空き時間等には、積極的に学内のピアノ練習室を利用するなどして、ピアノ練習を習慣づけることが肝要である。レッスンに備え毎日30分以上の練習を行い、レッスン後は各自担当教員の指導を念頭に置き、時間を置かず不合格曲の練習や新曲練習を繰り返し行うこと。長期休暇中においても同様に練習すること。		
課題のフィードバック方法	個別のレッスンカルテを作成し、毎週のレッスン時において、担当教員が課題の進捗状況や演奏技術等を記入し確認する。また、試演会やリハーサルを行い、一人ひとりの演奏に対し教育的指摘を行う。		
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験	40%	ディスカッション	
レポート		プレゼンテーション	
小テスト	10%	スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)	40%	ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	10%	教室外学習	
その他		その他	

テキスト	「保育者のためのピアノレッスン」清原貴子 鷺尾領子編著 権歌書房 ※その他、適宜資料や楽譜を配布する。
参考文献・推薦図書	「幼児のための音楽教育」神原雅之・鈴木恵津子編著 教育芸術社 「日本の子どもの歌」全国大学音楽教育学会編著 音楽之友社 ※その他、適宜授業中に紹介する。
関連のある授業科目	基礎音楽B(基礎音楽Aの発展科目) こどもと表現Ⅰ 保育内容【表現Ⅰ】 こどもの音楽遊び
資格等	

科目名

基礎音楽A(R)

《1単位(演習)／幼児保育学科1, 2年年後期／選択》【2クラス開講】

担当者

田邊裕子

実務経験

授業の概要

「保育表現技術」における「基礎音楽」の授業は、子どもの遊びや保育環境を豊かにするために必要な音楽表現に関する知識や技術を習得することを目標とする。
感性豊かな保育者を育成するためには、様々な音楽に興味関心を持ち主体的に取り組む学びの姿勢も求められる。子どもの発達や保育の環境・内容について理解しながら、豊かな感性や創造性を養うための音楽表現の実践とその展開方法を学ぶ。音楽表現に必要な基礎的知識や技術を理解し習得しやすいよう、小人数編成の演習形式やピアノ個人レッスンを展開する。

到達目標

- ①子どもの歌や、ピアノ伴奏、弾き歌いなど基礎的な音楽表現技術を理解し習得する。
- ②歌やピアノ実技などの実践・活動に繋げる音楽表現の基礎的知識を習得し、読譜力を高める。

事前事後学習

週毎に示している課題曲の合格を目標とし、ピアノ練習等を毎日積み重ねることが基本である。また練習方法を随時工夫して人前での発表や実践の準備に取り組む。
毎回の授業の復習をし、目標課題の達成に努力を怠らないこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	左記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
Ⅰ	保育者としての基礎的教養の修得	
Ⅱ	保育者としての基礎的技能の修得	○
Ⅲ	保育及び援助の目的の理解	
Ⅳ	保育及び援助の対象の理解	
Ⅴ	保育及び援助の方法の理解	

授業実施方法

	講義	演習	実験	実習	実技
		○			○
試験実施の有無	実施する ○	実施しない			

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	後期オリエンテーション・ピアノ奏法および楽譜の理解(ハ長調1)
2		2	ピアノ奏法および楽譜の理解(ハ長調2/音符と休符1)
3		3	ピアノ奏法および楽譜の理解(ト長調1/リズム1)
4		4	ピアノ奏法および楽譜の理解(ト長調2/音符と休符2)
5		5	ピアノ奏法および楽譜の理解(ヘ長調1/リズム2)
6		6	ピアノ奏法および楽譜の理解(ヘ長調2/音階と和音1)
7		7	ピアノ奏法および楽譜の理解(ハ長調3/リズム3)
8		8	ピアノ奏法および楽譜の理解(ハ長調4/試演会)
9		9	ピアノ奏法および楽譜の理解(ハ長調5/リズム4)
10		10	ピアノ奏法および楽譜の理解(ハ長調6/音階と和音2)
11		11	ピアノ奏法および楽譜の理解(ハ長調7、ヘ長調3/記号・楽語)
12		12	ピアノ奏法および楽譜の理解(ハ長調8、ヘ長調4/小テスト)
13		13	後期課題発表のための選曲と奏法1
14		14	後期課題発表のための奏法2(リハーサル)
15		15	後期のまとめと振り返り

授業外学習内容とその時間	レッスンにおいて、十分な練習がないまま受講することがあってはならない。空き時間等には、積極的に学内のピアノ練習室を利用するなどして、ピアノ練習を習慣づけることが肝要である。レッスンに備え毎日30分以上の練習を行い、レッスン後は各自担当教員の指導を念頭に置き、時間を置かず不合格曲の練習や新曲練習を繰り返し行うこと。長期休暇中においても同様に練習すること。		
課題のフィードバック方法	個別のレッスンカルテを作成し、毎週のレッスン時において、担当教員が課題の進捗状況や演奏技術等を記入し確認する。また、試演会やリハーサルを行い、一人ひとりの演奏に対し教育的指摘を行う。		
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験	40%	ディスカッション	
レポート		プレゼンテーション	
小テスト	10%	スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)	40%	ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	10%	教室外学習	
その他		その他	

テキスト	「保育者のためのピアノレッスン」清原貴子 鷺尾領子編著 権歌書房 ※その他、適宜資料や楽譜を配布する。
参考文献・推薦図書	「幼児のための音楽教育」神原雅之・鈴木恵津子編著 教育芸術社 「日本の子どもの歌」全国大学音楽教育学会編著 音楽之友社 ※その他、適宜授業中に紹介する。
関連のある授業科目	基礎音楽B(基礎音楽Aの発展科目) こどもと表現 I 保育内容【表現 I】 こどもの音楽遊び
資格等	

科目名

基礎音楽B

《1単位(演習)／幼児保育学科1, 2年後期／選択 ※基礎音楽Aの単位取得者のみ履修可》【2クラス開講】

担当者

赤峯美津子・間真惟子・松岡美羽・三浦栄子・山田倫子

実務経験

授業の概要

「保育表現技術」における「基礎音楽」の授業は、子どもの遊びや保育環境を豊かにするために必要な音楽表現に関する知識や技術を習得することを目標とする。
感性豊かな保育者を育成するためには、様々な音楽に興味関心を持ち主体的に取り組む学びの姿勢も求められる。子どもの発達や保育の環境・内容について理解しながら、豊かな感性や創造性を養うための音楽表現の実践とその展開方法を学ぶ。音楽表現に必要な基礎的知識や技術を理解し習得しやすいよう、小人数編成の演習形式やピアノ個人レッスンを展開する。

到達目標

- ①子どもの歌や、ピアノ伴奏、弾き歌いなど基礎的な音楽表現技術を理解し習得する。
- ②歌やピアノ実技などの実践・活動に繋げる音楽表現の基礎的知識を習得し、読譜力を高める。

事前事後学習

週毎に示している課題曲の合格を目標とし、ピアノ練習等を毎日積み重ねることが基本である。また練習方法を随時工夫して人前での発表や実践の準備に取り組む。
毎回の授業の復習をし、目標課題の達成に努力を怠らないこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	左記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
Ⅰ	保育者としての基礎的教養の修得	
Ⅱ	保育者としての基礎的技能の修得	○
Ⅲ	保育及び援助の目的の理解	
Ⅳ	保育及び援助の対象の理解	
Ⅴ	保育及び援助の方法の理解	

授業実施方法

	講義	演習	実験	実習	実技
試験実施の有無	実施する ○	実施しない			

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	後期オリエンテーション・ピアノ奏法および楽譜の理解(ト長調3)
2		2	ピアノ奏法および楽譜の理解(ハ長調5/リズム5)
3		3	ピアノ奏法および楽譜の理解(ハ長調6/音階と和音3)
4		4	ピアノ奏法および楽譜の理解(ニ長調1/リズム6)
5		5	ピアノ奏法および楽譜の理解(ニ長調2/音階と和音4)
6		6	ピアノ奏法および楽譜の理解(ト長調4/リズム7)
7		7	ピアノ奏法および楽譜の理解(イ短調1/試演会)
8		8	ピアノ奏法および楽譜の理解(イ短調2、ハ短調1/リズム8)
9		9	ピアノ奏法および楽譜の理解(ハ短調2/音階と和音5)
10		10	ピアノ奏法および楽譜の理解(ハ長調9/リズム9)
11		11	ピアノ奏法および楽譜の理解(ニ長調3・小テスト)
12		12	後期課題発表のための選曲と奏法1
13		13	後期課題発表のための奏法2
14		14	後期課題発表のための奏法3(リハーサル)
15		15	後期のまとめと振り返り

授業外学習内容とその時間

レッスンにおいて、十分な練習がないまま受講することがあってはならない。空き時間等には、積極的に学内のピアノ練習室を利用するなどして、ピアノ練習を習慣づけることが肝要である。レッスンに備え毎日30分以上の練習を行い、レッスン後は各自担当教員の指導を念頭に置き、時間を置かず不合格曲の練習や新曲練習を繰り返すこと。長期休暇中においても同様に練習すること。

課題のフィードバック方法	個別のレッスンカルテを作成し、毎週のレッスン時において、担当教員が課題の進捗状況や演奏技術等を記入し確認する。また、試演会やリハーサルを行い、一人ひとりの演奏に対し教育的指摘を行う。		
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験	40%	ディスカッション	
レポート		プレゼンテーション	
小テスト	10%	スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)	40%	ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	10%	教室外学習	
その他		その他	

テキスト	「保育者のためのピアノレッスン」清原貴子 鷲尾領子編著 権歌書房 ※その他、適宜資料や楽譜を配布する。
参考文献・推薦図書	「幼児のための音楽教育」神原雅之・鈴木恵津子編著 教育芸術社 「日本の子どもの歌」全国大学音楽教育学会編著 音楽之友社 ※その他、適宜授業中に紹介する。
関連のある授業科目	基礎音楽A ※基礎音楽Bは基礎音楽Aの発展科目。 こどもと表現Ⅰ 保育内容【表現Ⅰ】 こどもの音楽遊び
資格等	

科目名

基礎音楽B(R)

《1単位(演習)／幼児保育学科2年前期／選択 ※基礎音楽Aの単位取得者のみ履修可》【2クラス開講】

担当者

田邊裕子

実務経験

授業の概要

「保育表現技術」における「基礎音楽」の授業は、子どもの遊びや保育環境を豊かにするために必要な音楽表現に関する知識や技術を習得することを目標とする。
 感性豊かな保育者を育成するためには、様々な音楽に興味関心を持ち主体的に取り組む学びの姿勢も求められる。子どもの発達や保育の環境・内容について理解しながら、豊かな感性や創造性を養うための音楽表現の実践とその展開方法を学ぶ。音楽表現に必要な基礎的知識や技術を理解し習得しやすいう、小人数編成の演習形式やピアノ個人レッスンを展開する。

到達目標

- ①子どもの歌や、ピアノ伴奏、弾き歌いなど基礎的な音楽表現技術を理解し習得する。
- ②歌やピアノ実技などの実践・活動に繋げる音楽表現の基礎的知識を習得し、読譜力を高める。

事前事後学習

週毎に示している課題曲の合格を目標とし、ピアノ練習等を毎日積み重ねることが基本である。また練習方法を随時工夫して人前での発表や実践の準備に取り組む。
 毎回の授業の復習をし、目標課題の達成に努力を怠らないこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	左記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
Ⅰ	保育者としての基礎的教養の修得	
Ⅱ	保育者としての基礎的技能の修得	○
Ⅲ	保育及び援助の目的の理解	
Ⅳ	保育及び援助の対象の理解	
Ⅴ	保育及び援助の方法の理解	

授業実施方法

	講義	演習	実験	実習	実技
		○			○
試験実施の有無	実施する ○	実施しない			

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	前期オリエンテーション・ピアノ奏法および楽譜の理解(ト長調3)	16	
2	ピアノ奏法および楽譜の理解(ヘ長調5/リズム5)	17	
3	ピアノ奏法および楽譜の理解(ヘ長調6/音階と和音3)	18	
4	ピアノ奏法および楽譜の理解(ニ長調1/リズム6)	19	
5	ピアノ奏法および楽譜の理解(ニ長調2/音階と和音4)	20	
6	ピアノ奏法および楽譜の理解(ト長調4/リズム7)	21	
7	ピアノ奏法および楽譜の理解(イ短調1/試演会)	22	
8	ピアノ奏法および楽譜の理解(イ短調2、ハ短調1/リズム8)	23	
9	ピアノ奏法および楽譜の理解(ハ短調2/音階と和音5)	24	
10	ピアノ奏法および楽譜の理解(ハ長調9/リズム9)	25	
11	ピアノ奏法および楽譜の理解(ニ長調3・小テスト)	26	
12	前期課題発表のための選曲と奏法1	27	
13	前期課題発表のための奏法2	28	
14	前期課題発表のための奏法3(リハーサル)	29	
15	前期のまとめと振り返り	30	

授業外学習内容とその時間	レッスンにおいて、十分な練習がないまま受講することがあってはならない。空き時間等には、積極的に学内のピアノ練習室を利用するなどして、ピアノ練習を習慣づけることが肝要である。レッスンに備え毎日30分以上の練習を行い、レッスン後は各自担当教員の指導を念頭に置き、時間を置かず不合格曲の練習や新曲練習を繰り返し行うこと。長期休暇中においても同様に練習すること。		
課題のフィードバック方法	個別のレッスンカルテを作成し、毎週のレッスン時において、担当教員が課題の進捗状況や演奏技術等を記入し確認する。また、試演会やリハーサルを行い、一人ひとりの演奏に対し教育的指摘を行う。		
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験	40%	ディスカッション	
レポート		プレゼンテーション	
小テスト	10%	スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)	40%	ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	10%	教室外学習	
その他		その他	

テキスト	「保育者のためのピアノレッスン」清原貴子 鷺尾領子編著 権歌書房 ※その他、適宜資料や楽譜を配布する。
参考文献・推薦図書	「幼児のための音楽教育」神原雅之・鈴木恵津子編著 教育芸術社 「日本の子どもの歌」全国大学音楽教育学会編著 音楽之友社 ※その他、適宜授業中に紹介する。
関連のある授業科目	基礎音楽A ※基礎音楽Bは、基礎音楽Aの発展科目。 こどもと表現 I 保育内容【表現 I】 こどもの音楽遊び
資格等	

科目名

こどもと表現 I

《1単位(演習)／幼児保育学科1年後期／選択》

担当者

田邊裕子

実務経験

授業の概要

保育内容の領域「表現」に関するねらい及び内容を知らせ、豊かな感性や表現はどのようにして生まれるのか、音楽表現活動を通して子どもの発達と表現活動について理解を深める。また、前期の「保育内容【表現 I】」を踏まえ、歌唱や器楽合奏、身体表現、製作など、様々な表現活動を支えるための知識や技能を習得し、幅広い活動に対応できる保育者を目指す。

到達目標

- ・幼児の発達の特徴を理解し、様々な表現に対して共感し必要な援助ができる。
- ・幼児の特性に応じた題材選択や、その展開方法を学び実践に移すことができる。
- ・グループ活動を通し、学生相互の学び合いにより豊かな感性や表現力を高める。

事前事後学習

・授業内容の理解を深めるために、その日のうちに復習し、学習した内容を確実に身につけ、実習で活かせるよう努める。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	左記の3つの学習成果は以下の I ~ V の5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代に合った生活感を身につけている。	
I	保育者としての基礎的教養の修得	
II	保育者としての基礎的技能の修得	
III	保育及び援助の目的の理解	
IV	保育及び援助の対象の理解	
V	保育及び援助の方法の理解	○

授業実施方法

講義	演習	実験	実習	実技
	○			○

試験実施の有無

実施する	実施しない
○	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	授業のねらいや進め方(オリエンテーション)
2		2	領域「表現」のねらいと内容
3		3	子どもの発達と音楽表現活動
4		4	手あそび・歌あそび・絵かき歌①(既存曲)
5		5	手あそび・歌あそび・絵かき歌②(創作)
6		6	リズムあそび・ヴォイスアンサンブル①(グループ練習)
7		7	リズムあそび・ヴォイスアンサンブル②(グループ発表)
8		8	リトミック①
9		9	リトミック②
10		10	ハンドベル合奏①(グループ練習)
11		11	ハンドベル合奏②(グループ練習)
12		12	ハンドベル合奏③(グループ発表)
13		13	器楽合奏①(グループ練習)
14		14	器楽合奏②(グループ発表)
15		15	まとめと振り返り

授業外学習内容とその時間	毎回の授業計画に合わせて予習をしておくこと。授業後は、内容をまとめ復習し、次回授業に備える。各自専用ファイルを用意し、授業で配布したプリントや楽譜類を綴じ整理すること。		
課題のフィードバック方法	個人やグループによる課題発表体験により、相互評価・自己評価結果のシェアリングによって、成果と課題を可視化する。		
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験		ディスカッション	
レポート		プレゼンテーション	
小テスト	10%	スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)	60%	ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	30%	教室外学習	
その他		その他	

テキスト	「日本の子どもの歌」全国大学音楽教育学会編著 音楽之友社 ※その他、適宜資料や楽譜を配布する。
参考文献・推薦図書	「保育者のためのピアノレッスン」清原貴子 鷲尾領子編著 櫛歌書房 「幼児のための音楽教育」神原雅之・鈴木恵津子編著 教育芸術社 ※その他、適宜授業中に紹介する。
関連のある授業科目	基礎音楽AB 保育内容【表現Ⅰ】 こどもの音楽遊び
資格等	

科目名

こどもと表現Ⅱ

《1単位(演習)／幼児保育学科1年後期／保育士必修》

担当者

森本直樹

実務経験

授業の概要

領域「表現」に関する幼児造形表現の理論と実践、実技を深め、造形要素による子どもの発達を理解する。様々な素材・材料や用具、表現法に触れて造形表現の内容理解を深める。さらに、幼児造形活動の指導や支援に必要な基礎的な知識や技術を習得し、就学前教育においてのつながりなどを身につけるための方法や指導法を理解する。また、協同制作での対話や、造形遊び、描く、作る活動内容をとおして、楽しさを味わい、保育者としての感性や造形表現力及び、指導法を身につける。

到達目標

- ・領域「表現」のねらい及び内容について理解する。
- ・乳幼児の造形の発達段階や就学前教育における内容の関連性などを理解する。
- ・素材や用具、表現法に触れ、幼児造形活動の指導法や支援に必要な、基礎的な知識と技術を体験する。
- ・個人やグループでの対話や制作に積極的に取り組み、幼児の造形表現が豊かになるための工夫を体験する。

事前事後学習

- ・指定された用具を持参すること。
- ・造形表現活動に関する題材や資料の収集をすること。
- ・授業内に作品が仕上がらない場合は、指定する期限までに完成させること。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている	
5	保育者としての基礎的教養の修得	
6	保育者としての基礎的技能の修得	
7	保育及び援助の目的の理解	
8	保育及び援助の対象の理解	
9	保育及び援助の方法の理解	○

授業実施方法	講義	演習	実験	実習	実技
	○	○			○
試験実施の有無	実施する	実施しない			
		○			

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	オリエンテーション: 幼児の造形表現についての概観
2		2	造形表現の基礎: つくる活動の制作体験
3		3	造形表現の指導: つくる活動の指導法
4		4	造形表現の基礎製作①: 教材づくり
5		5	造形表現の基礎製作②: 教材づくり(発表)
6		6	造形遊びの理解: ねらいと内容、制作体験
7		7	造形遊びの理解: 実践と評価
8		8	造形表現の実践: 教材開発研究
9		9	造形表現の実践: 指導案作成
10		10	造形表現の実践: 模擬保育
11		11	造形表現の実践: 模擬保育の振り返り、まとめ
12		12	造形表現の応用: 協同活動の実践と指導法
13		13	造形表現の応用: 教材制作(協同制作)
14		14	造形表現の応用: 教材制作、発表(協同制作)
15		15	まとめ: 振り返り(ワークシート活動、レポート作成)

授業外学習内容とその時間	毎回の授業計画に合わせて教科書を使い予習・復習を1時間程度しておく。		
課題のフィードバック方法	課題作品完成後、作品、ワークシートなどのポートフォリオを作成しておくこと。ポートフォリオの作成については、授業内で説明をする。		
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験		ディスカッション	有
レポート	20%	プレゼンテーション	有
課題等提出物	50%	スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)	20%	ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	10%	教室外学習	
その他		その他	

テキスト	『幼児造形の基礎-乳幼児の造形表現と造形教材-』 編著 樋口一成 萌文書林 2018
参考文献・推薦図書	『流れがわかる幼稚園・保育所実習』 発達年齢、季節や場所にあった指導案を考えよう 浅川繭子著他 萌文書林 2015
関連のある授業科目	保育内容【表現Ⅱ】、保育内容指導法、保育内容総論など
資格等	幼稚園教諭二種免許・保育士資格

科目名

こどもと健康

《1単位(演習)／幼児保育学科2年後期／選択必修》

担当者

小林宜義

実務経験

授業の概要

この講義では、幼稚園教育要領・保育所保育指針等における領域「健康」の「ねらい」「内容」について理解すると共に、乳幼児の健康の諸問題について子ども達が自ら学び、考え、問題解決できるよう、非認知能力を育む指導のあり方について実践も踏まえ学んでいきます。

到達目標

子どもの発達過程に即し、保育過程の実際について理解する。

事前事後学習

講義中に実施する課題に対応するため、配布資料や推薦図書の読み込み(予習・復習)を行なって下さい。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼児教育の理解	
2	指針・要領における保育の目的と目標の理解	
3	発育発達への理解	
4	現状の子どもの体力・運動能力の理解	
5	子どもの運動能力の特徴の理解	
6	幼児期に必要な安全の習慣形成の理解	
7	子どもの発達と事故の関連性についての理解	
8	コミュニケーション能力	
9	動作観察能力	
10	動作分析能力	

授業実施方法

講義	演習	実験	実習	実技
	○			

試験実施の有無

実施する	実施しない
○	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
		1	幼児教育の基本
		2	保育内容・領域「健康」
		3	子どもの育ちと領域「健康」
		4	子どもの「健康」をめぐる現状と課題
		5	子どもの健康と遊び
		6	園生活と生活習慣
		7	子どもの健康と安全教育
		8	幼児教育の現代的課題と領域「健康」
		9	こどもの健康を育む実践①
		10	領域「健康」に保育者の役割
		11	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿
		12	「健康」と他領域のかかわり
		13	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿
		14	子どもの事故について
		15	まとめ

授業外学習内容とその時間	毎回レジメを配布し、実施したプログラムをノートしますので、それらを利用して予習・復習をして下さい。授業外学習時間として、1回の講義あたり1時間程度を目安として行なって下さい。		
課題のフィードバック方法	提出されたレポートを添削します。その内容について理解を深めて下さい。		
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験	50%	ディスカッション	有
レポート	20%	プレゼンテーション	
小テスト		スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	有
平常点・授業への貢献度	30%	教室外学習	
その他		その他	

テキスト	随時資料を配布する。
参考文献・推薦図書	北大路書房:デジタル社会の子どもの育ちを支える「保育内容健康」
関連のある授業科目	保育内容【健康】
資格等	幼稚園教諭2種免許・保育士資格

科目名

こどもと言葉

《1単位(演習)/幼児保育学科1年後期/卒業・保育士・幼免必修》

担当者

田中優也

実務経験

授業の概要

本講義では、15回の講義を通してオペレッタの制作および発表を行う。オペレッタを通して、保育現場における言葉の指導及び援助の方法や技術の習得を目指す。オペレッタの発表は園児を招いて実施する。実際に園児と触れ合うことや、自身で制作したオペレッタに対する子どもたちの反応を観察することにより、保育者としての感性を培うことを目的とする。

到達目標

- ・乳幼児期の言葉の発達に合わせた保育者の言葉使いについて習得する
- ・ことばを育てる保育者の役割と援助について理解を深める。
- ・ことばを育てる文化財について理解し、オペレッタや劇遊びの基本的な実践方法を習得する。

事前事後学習

- ・オペレッタに関する園や映像を見ておくこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のI～Vの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
I	保育者としての基礎的教養の修得	
II	保育者としての基礎的技術の修得	
III	保育及び援助の目的の理解	
IV	保育及び援助の対象の理解	
V	保育及び援助の方法の理解	○

授業実施方法

講義	演習	実験	実習	実技
	○			○
実施する	実施しない			
○				

試験実施の有無

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
		1	オリエンテーション 授業の学び方や今後の流れについて
		2	オペレッタ制作および練習
		3	オペレッタ制作および練習
		4	オペレッタ制作および練習
		5	オペレッタ制作および練習
		6	オペレッタ制作および練習
		7	オペレッタ制作および練習
		8	オペレッタ制作および練習
		9	オペレッタ制作および練習
		10	オペレッタ制作および練習
		11	オペレッタ制作および練習
		12	オペレッタ制作および練習
		13	オペレッタ制作および練習
		14	オペレッタ発表
		15	まとめ

授業外学習内容とその時間		
課題のフィードバック方法		
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング
定期試験	70%	ディスカッション
レポート		プレゼンテーション
小テスト		スピーチ
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ
平常点・授業への貢献度	30%	教室外学習
その他		その他

テキスト	
参考文献・推薦図書	
関連のある授業科目	保育内容【言葉】、保育内容【表現】、保育内容総論など
資格等	幼稚園教諭二種免許・保育士資格

科目名

こどもと人間関係

《1単位(演習)／幼児保育学科1年前期／卒業選択必修、保育士・幼免許必修》

担当者

金戸憲子

実務経験

有(元幼稚園教諭)

授業の概要

乳幼児から就学前までの子どもの発達の概要を理解する。その過程において、どのような環境や「人とのかかわり」が求められるのかを探るとともに、育ちを支える保育・教育のあり方を学ぶ。また、グループワークや事例検討等も積極的に取り入れ、受講者自身のコミュニケーション・スキルの向上をはかる。

到達目標

・「生きる力」の原点としての人間関係には、乳幼児期における人とのかかわりが重要であることを理解する。
・集団生活のなかでの発達の過程を見通した指導について理解する。

事前事後学習

・該当授業回のテキストの関連箇所や配布する資料を授業回前後に読み、理解を深めながら取り組むこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	見学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	左記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている	
Ⅰ	保育者としての基礎的教養の習得	
Ⅱ	保育者としての基礎的技能の習得	
Ⅲ	保育及び援助の目的の理解	
Ⅳ	保育及び援助の対象の理解	
Ⅴ	保育及び援助の方法の理解	○

授業実施方法

講義	演習	実験	実習	実技
○	○			

試験実施の有無

実施する	実施しない
○	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション(講義の目的と目標)、人間関係とは	16	
2	子どもを取り巻く人間関係	17	
3	保育における人間関係	18	
4	乳幼児の人間関係(人間関係の発達)	19	
5	乳幼児の人間関係(生活と遊び)	20	
6	1歳以上3歳未満児の人間関係(人間関係の発達)	21	
7	1歳以上3歳未満児の人間関係(遊びと生活・保育者の役割)	22	
8	3歳以上児の人間関係(人間関係の発達)	23	
9	3歳以上児の人間関係(遊びと生活・保育者の役割)	24	
10	子どもの人間関係と社会性・道徳性(社会性の育ち)	25	
11	子どもの人間関係と社会性・道徳性(道徳性の育ち)	26	
12	家庭や地域との連携	27	
13	保育者が紡ぐ人間関係(保育者自身の人間関係)	28	
14	保育者が紡ぐ人間関係(子ども理解に向けて)	29	
15	講義全体のまとめ	30	

授業外学習内容とその時間	前回の講義内容を理解し、概要を説明できるようにしておく(目安時間:各回約2時間)		
課題のフィードバック方法	学生の発表内容について、適宜教員から指導を行う。		
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験	60%	ディスカッション	有
レポート		プレゼンテーション	有
小テスト		スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)	30%	ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	10%	教室外学習	
その他		その他	

テキスト	ワークで学ぶ 保育内容「人間関係」、菊地篤子〔著〕、株式会社みらい
参考文献・推薦図書	文部科学省「幼稚園教育要領」、厚生労働省「保育所保育指針」、内閣府「幼保連携型認定こども園保育・教育要領」、
関連のある授業科目	保育内容【人間関係】、保育の心理学
資格等	幼稚園教諭二種免許状・保育士資格

科目名

保育者論

《2単位(講義)／幼児保育学科1年後期／選択必修》

担当者

入江良英

実務経験

授業の概要

保育者・教師の本質について、まず考えてみる。そしてさらにその歴史の変遷についても見てみる。続いて、子どもの成長と発達を見抜く保育者・教育者の資質・専門性について考究する。子どもの個的发展と社会的發展の両方に関心を持つことに習熟することを目指し、環境づくりを行い、様々な保育技術を有することの意義を考えてみる。そして次代の保育者像・教育者像についてもイメージしてみる。

到達目標

実習等、実践も行いつつ、「保育者」「教師」についての多くの知見を知ることで、基本的な保育者・教育者の理想的・現実的イメージを固めていき、専門的キャリア確立への基礎固めを行う。

事前事後学習

多くの保育者・教師に関するテキストを読むため、2時間は予習してもらいたい。課題のプリントに1時間をかけ、復習に1時間、一回の授業につき、合計4時間は必要であろう。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養と倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
Ⅰ	保育者としての基礎的な教養の修得	
Ⅱ	保育者としての基礎的な技能の修得	
Ⅲ	保育及び援助の目的の理解	○
Ⅳ	保育及び援助の対象の理解	
Ⅴ	保育及び援助の方法の理解	

授業実施方法

	講義	演習	実験	実習	実技
	○				
試験実施の有無	実施する	実施しない			
	○				

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	保育者・教育者とは何か考えてみよう
2		2	保育者・教育者の資格・免許について知ろう
3		3	保育者・教育者の教職観の変遷を考えよう
4		4	保育者・教育者の一日とはどのようなものか
5		5	保育者・教育者に必要な資質・専門性とは
6		6	子どもの成長と発達について調べてみよう
7		7	子どもの理解とクラス(集団)づくりについて
8		8	環境をいかす保育者・教育者について考える
9		9	保育者・教育者に必要なさまざまな技術とは
10		10	さまざまな子どもや保護者を支援する保育者
11		11	保育者・教育者のメンタルヘルスについて知る
12		12	保育者・教育者必要な連携・協働について
13		13	保育者・教育者に必要な研修について知ろう
14		14	これからの保育者・教育者について考えよう
15		15	未来の保育者・教育者についてイメージしよう

授業外学習内容とその時間	授業前の予習時間として1時間半、授業プリントに対する解答とその復習に1時間半を想定している。総計で最低3時間は必要であろう。		
課題のフィードバック方法	毎回授業プリントを配り回収し、翌週の講義の初めに返却、その内容を復習する。定期試験問題は、授業プリントから提出する。		
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験	40%	ディスカッション	有
レポート	40%	プレゼンテーション	有
小テスト		スピーチ	有
発表(プレゼン・スピーチ等)	10%	ロールプレイ	有
平常点・授業への貢献度	10%	教室外学習	無
その他		その他	無

テキスト	『保育者論 教育者論』 田中卓也ほか編 わかば社 2020
参考文献・推薦図書	①『保育者の地平』津守真 ミネルヴァ書房 その他
関連のある授業科目	保育原理 保育内容総論 保育課程論
資格等	保育士 保育ソーシャルワーカー

科目名

教育原理

《2単位(講義)／幼児保育学科2年前期／選択必修》

担当者

入江良英

実務経験

授業の概要

教育の意義と目的、教育の基礎的概念と諸理論、教育の歴史、教育の制度、教育の実践、生涯学習における教育、現代の教育における問題と課題など、教育に関わる包括的な知識・知恵を学ぶことになる。

到達目標

教育に関する包括的な知識を身に付け、「教える」「教授する」そして学ぶとはどういうことかについて考えられるようにする。有能な幼稚園教諭・保育教諭への準備勉強を行う。

事前事後学習

予習に1時間半、授業プリントに1時間、内容復習のために1時間30分をようするであろう。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
Ⅰ	保育者としての基礎的教養の修得	
Ⅱ	保育者としての基礎的技術の修得	
Ⅲ	保育及び援助の目的の理解	○
Ⅳ	保育及び援助の対象の理解	
Ⅴ	保育及び援助の方法の理解	

授業実施方法

講義	演習	実験	実習	実技
○				

試験実施の有無

実施する	実施しない
○	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	教育の意義と目的①について調べてみよう	1	
2	教育の意義と目的②について調べてみよう	2	
3	教育の基礎的概念と諸理論について学ぶ①	3	
4	教育の基礎的概念と諸理論について学ぶ②	4	
5	教育の歴史について調べることにしてみよう①	5	
6	教育の歴史について調べることにしてみよう②	6	
7	教育の制度に関して詳しく調べてみよう ①	7	
8	教育の制度に関して詳しく調べてみよう ②	8	
9	教育の実践について調べ考察しよう ①	9	
10	教育の実践について調べ考察しよう ②	10	
11	生涯学習社会における教育を考えよう ①	11	
12	生涯学習社会における教育を考えよう ②	12	
13	現代の教育における問題と課題 とは ①	13	
14	現代の教育における問題と課題 とは ②	14	
15	未来からの教育について調べ考えてみよう	15	

授業外学習内容とその時間	授業前の予習時間として1時間半、授業プリントに対する解答とその復習に1時間半を想定している。総計で最低3時間は必要であろう。		
課題のフィードバック方法	毎回授業プリントを配り回収し、翌週の講義の初めに返却、その内容を復習する。定期試験問題は、授業プリントから提出する。		
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験	40%	ディスカッション	有
レポート	40%	プレゼンテーション	有
小テスト		スピーチ	有
発表(プレゼン・スピーチ等)	10%	ロールプレイ	有
平常点・授業への貢献度	10%	教室外学習	無
その他		その他	無

テキスト	『教育原理』 保育士養成講座編纂委員会編 全国社会福祉協議会2002
参考文献・推薦図書	①「幼稚園教育要領解説」 ②『教育原理』 矢藤誠慈郎 中央法規2019
関連のある授業科目	保育者論 保育内容総論 保育課程論
資格等	幼稚園教諭二種 保育教諭 小学校教諭二種

科目名

保育の心理学

《2単位(講義)／幼児保育学科 年 期／幼児許必》【2クラス開講】

担当者

守田典子

実務経験

授業の概要

子どもの発達についての基本知識や、社会性・自己認識の育ち、集団の経験の意義について解説する。そして、子どもにとっての遊びと学びの意義とあり様、保育における発達援助について詳しく学ぶ。

到達目標

年齢別の発達段階について理解し、社会性・自己認識・他者理解の成長と個性を踏まえながら、保育者として子どもの遊びと学びの経験を支える発達援助のあり方が分かる。

事前事後学習

講義後の振り返りを各自まとめておくこと(感想や印象に残ったことでもよい)

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
I	保育者としての基礎的教養の修得	
II	保育者としての基礎的技能の修得	
III	保育及び援助の目的の理解	○
IV	保育及び援助の対象の理解	
V	保育及び援助の方法の理解	

授業実施方法	講義	演習	実験	実習	実技
	○				
試験実施の有無	実施する	実施しない			
	○				

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	発達を通じた子どもへの理解	16	
2	個人差や発達過程に応じた保育	17	
3	身体感覚をとまなう多様な経験と環境との相互作用	18	
4	環境としての保育者と子どもの発達	19	
5	子ども相互の関わりと関係づくり	20	
6	自己主張と自己統制	21	
7	子ども集団と保育の環境	22	
8	子どもの生活と学び	23	
9	子どもの遊びと学び	24	
10	生涯にわたる生きる力の基礎を培う	25	
11	基本的な生活習慣の獲得と発達援助	26	
12	自己の主体性の形成と発達援助	27	
13	発達の課題に応じた援助や関わり	28	
14	地域との連携、就学への支援	29	
15	現代社会における子どもの発達と保育の課題	30	

授業外学習内容 とその時間				
課題のフィード バック方法				
	成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
	定期試験	70%	ディスカッション	
	レポート		プレゼンテーション	
	小テスト		スピーチ	
	発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	
	平常点・授業への貢献度	30%	教室外学習	
	その他		その他	

テキスト	『保育の心理学 演習ブック』松本峰雄監修、ミネルヴァ書房
参考文献・推薦図書	随時紹介
関連のある授業科目	
資格等	

科目名

教育制度論

《2単位(講義)／幼児保育学科2年後期／選択必修》

担当者

入江良英

実務経験

授業の概要

様々な「教育制度」:学校教育制度・幼児教育制度・保育所制度・義務教育制度・特別支援教育制度・教員制度・教育行政と福祉行政の連携・7子育て支援の制度など、多方面な教育に関する制度から、教育の性質・教育に関するネットワークについて考究する授業である。

到達目標

保育士・幼稚園教諭二種・保育教諭等に必要な社会制度的な関心による認識枠組みについての知識を構築するものである。

事前事後学習

授業の毎回の予習に2時間、授業プリントに1時間半、内容の復習に1時間必要である。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
Ⅰ	保育者としての基礎的教養の修得	
Ⅱ	保育者としての基礎的技術の修得	
Ⅲ	保育及び援助の目的の理解	○
Ⅳ	保育及び援助の対象の理解	
Ⅴ	保育及び援助の方法の理解	

授業実施方法

講義	演習	実験	実習	実技
○				

試験実施の有無

実施する	実施しない
○	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	教育制度とは何かについて考える
2		2	現代の教育制度について考える
3		3	学校教育制度について調べる
4		4	幼児教育制度について調べる
5		5	保育所制度の構造について考える
6		6	義務教育制度について考える
7		7	特別支援教育制度について調べる
8		8	教員制度について調べてみる
9		9	中央教育行政と地方教育行政とは
10		10	学校経営の制度について考える
11		11	学校と地域の連携について調べる
12		12	生徒指導上の諸課題に関わる法制度
13		13	教育行政と福祉行政の連携について
14		14	学校安全と子どもの事故について
15		15	子育て支援の制度について考える

授業外学習内容とその時間	授業前の予習時間として1時間半、授業プリントに対する解答とその復習に1時間半を想定している。総計で最低3時間は必要であろう。		
課題のフィードバック方法	毎回授業プリントを配り回収し、翌週の講義の初めに返却、その内容を復習する。定期試験問題は、授業プリントから提出する。		
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験	40%	ディスカッション	有
レポート	40%	プレゼンテーション	有
小テスト		スピーチ	有
発表(プレゼン・スピーチ等)	10%	ロールプレイ	有
平常点・授業への貢献度	10%	教室外学習	無
その他		その他	無

テキスト	『保育者・小学校教員のための教育制度論』内山絵美子他編教育開発研究所 2021
参考文献・推薦図書	①『教育制度論』早田幸政 ミネルヴァ書房 2016 他
関連のある授業科目	教育原理 保育原理 社会的養護他
資格等	小学校教諭(二種) 幼稚園教諭二種 保育士等

科目名

特別支援教育論

《1単位(演習)／幼児保育学科2年前期／卒業・保育士・幼免必修》

担当者

金戸憲子

実務経験

有(元幼稚園教諭)

授業の概要

発達障害をはじめとする特別な支援を必要とする子どもが通常の学級に在籍している現状を踏まえながら授業をすすめる。当該幼児が主体的に活動し、生きる力を身につけていくために、園生活上の困難を理解したうえで、個別の教育的ニーズを把握し、園総体として関係機関とも連携した組織的対応をしていくために必要な知識や支援方法を理解する。

到達目標

- ・障害の特性、心身の発達、学習上・生活上の困難等の基礎的知識について理解する。
- ・特別な支援を必要とする子どもへの具体的な支援について、理解を深める。
- ・母国語や貧困の問題等、障害はないが特別な教育的ニーズの必要な子どもの理解と対応を学ぶ。

事前事後学習

- ・テキストや参考図書等を精読し、学習理解を深める。
- ・教材製作等に必要の情報収集や検討を、授業の前後においてもおこなう。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	見学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	左記の3つの学習成果は以下のI～Vの5つの要素から構成される
3	各種実習や専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている	
I	保育者としての基礎的教養の習得	
II	保育者としての基礎的技能の習得	
III	保育及び援助の目的の理解	○
IV	保育及び援助の対象の理解	
V	保育及び援助の方法の理解	

授業実施方法

	講義	演習	実験	実習	実技
	○	○			
試験実施の有無	実施する	実施しない			
	○				

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション(講義の目的と目標)、特別支援教育の理念	16	
2	特別支援教育の仕組み	17	
3	特別支援教育の対象	18	
4	発達障害の子どもへの理解	19	
5	発達障害のある子どもに対する対応	20	
6	知的障害のある子どもへの理解	21	
7	個別の指導計画と個別の教育支援計画	22	
8	通級による指導	23	
9	障害理解の推進について	24	
10	特別支援学級の教育と対応	25	
11	特別支援学校の教育と対応	26	
12	家庭との連携	27	
13	福祉との連携	28	
14	障害のある子どもへの教育の歩み	29	
15	特別な教育的ニーズ・講義全体のまとめ	30	

授業外学習内容とその時間	前回の講義内容を理解し、他者に説明できるようにしておく(目安時間:各回約2時間)		
課題のフィードバック方法	学生の発表内容について、適宜教員から指導を行う。		
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験	60%	ディスカッション	有
レポート	20%	プレゼンテーション	有
小テスト		スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)	10%	ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	10%	教室外学習	
その他		その他	

テキスト	テキスト特別支援教育 特別支援教育臨床実践センター監修 クリエイトかもがわ
参考文献・推薦図書	「キーワードブック特別支援教育」玉村公二彦他編、クリエイトかもがわ 新 版保育・幼児教育のフロンティア 伊藤良高他[編]晃洋書房
関連のある授業科目	保育の心理学、子ども家庭支援の心理学、障害児保育
資格等	幼稚園教諭二種免許状、保育士資格

科目名

保育内容総論

《1単位(演習)／幼児保育学科1年後期／幼免・保育士必修》

担当者

田中優也

実務経験

授業の概要

幼稚園教育要領や保育所保育指針の趣旨を理解し、保育の基本についての考え方を学習する。保育内容が乳幼児の「発達の側面」から5つの領域でしめされていることを理解する。保育の本質である遊びを通しての総合的指導を実現し、実践的指導力を養うためには保育内容はどうかを学ぶ。

到達目標

・領域別に学習する保育内容が実践の保育現場では統合して、実践されていることを理解する。
・保育の基本とされている”総合的な指導”が行えるようにする。

事前事後学習

毎授業前に「保育所保育指針」・「幼稚園教育要領」を熟読しておくこと。
授業後は、ノートをまとめ、授業内容の理解に努めること。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
Ⅰ	保育者としての基礎的教養の修得	
Ⅱ	保育者としての基礎的技能の修得	
Ⅲ	保育及び援助の目的の理解	
Ⅳ	保育及び援助の対象の理解	
Ⅴ	保育及び援助の方法の理解	○

授業実施方法

講義	演習	実験	実習	実技
○	○			○

試験実施の有無

実施する	実施しない
	○

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	1年後期
1		1	オリエンテーション:授業の概要説明
2		2	保育内容とは
3		3	保育内容の区分
4		4	保育内容の歴史－日本と欧米
5		5	教育と養護の関連
6		6	遊びとその特徴
7		7	個と集団の育ち
8		8	観察と記録の意義
9		9	保育の一日の流れ
10		10	保育現場における劇遊び
11		11	劇の製作および練習
12		12	劇の製作および練習
13		13	劇の製作および練習
14		14	劇の製作および練習
15		15	発表

授業外学習内容 とその時間				
課題のフィード バック方法				
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無	
定期試験		ディスカッション		
レポート		プレゼンテーション		
小テスト		スピーチ		
発表(プレゼン・スピーチ等)	60%	ロールプレイ		
平常点・授業への貢献度	20%	教室外学習		
その他	20%	その他		

テキスト	コンパクト版保育者養成シリーズ「保育内容総論」一藝社
参考文献・推薦図書	「幼稚園教育要領」／「認定こども園教育・保育要領解説」／「保育所保育指針」
関連のある授業科目	保育内容5領域科目
資格等	幼稚園教諭二種免許・保育士資格

科目名

保育内容【健康】

《1単位(演習)／幼児保育学科2年後期／選択必修》

担当者

小林宜義

実務経験

授業の概要

この講義では、乳幼児期の活発な運動遊びが、その後の青少年期における心身の健康にどのような影響を与えていくかについて、深く学んでいきます。また、この時期における活発な運動遊びが各種脳機能の発達や、近年幼児教育で重要視されはじめた「非認知能力の獲得」との関係について、実技も交え探究していきます。

到達目標

幼児期の活発な運動遊びが、心身の健康の発達にどのような影響を及ぼすかを述べられる。

事前事後学習

講義の前に、テキスト「保育内容【健康】」の当該箇所を予習して下さい。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
Ⅰ	保育者としての基礎的教養の修得	
Ⅱ	保育者としての基礎的技術の修得	
Ⅲ	保育及び援助の目的の理解	
Ⅳ	保育及び援助の対象の理解	
Ⅴ	保育及び援助の方法の理解	○

授業実施方法

講義	演習	実験	実習	実技
○				○

試験実施の有無

実施する	実施しない
○	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
		1	オリエンテーション
		2	子どもの育ちの異変の理解について理解する①
		3	子どもの育ちの異変の理解について理解する②
		4	非認知能力を育む乳幼児期の発育発達の理解①
		5	非認知能力を育む乳幼児期の発育発達の理解②
		6	非認知能力を育む乳幼児期の発育発達の理解③
		7	これまでの振り返り①
		8	乳児の発育発達の理解①
		9	乳児の発育発達の理解②
		10	幼児の発育発達の理解①
		11	幼児の発育発達の理解②
		12	これまでの振り返り②
		13	連動して進む運動発達と脳発達の理解①
		14	連動して進む運動発達と脳発達の理解②
		15	まとめ

授業外学習内容とその時間	講義の前に、テキスト「保育内容【健康】」の当該箇所を予習・復習をして下さい。1回の講義あたり30分程度を目安としてして下さい。		
課題のフィードバック方法	提出されたレポートを添削しフィードバックします。その内容について理解を深めて下さい。		
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験	50%	ディスカッション	有
レポート	30%	プレゼンテーション	
小テスト		スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	有
平常点・授業への貢献度	20%	教室外学習	
その他		その他	

テキスト	北大路書房:デジタル社会の子どもの育ちを支える「保育内容健康」
参考文献・推薦図書	その他、随時資料を配布します。
関連のある授業科目	こどもの遊びと運動学・こども健康
資格等	幼稚園教諭2種免許・保育士資格

科目名

保育内容【人間関係】

《1単位(講義)／幼児保育学科1年後期／卒業・保育士・幼免許必修》

担当者

金戸憲子

実務経験

有(元幼稚園教諭)

授業の概要

子どもの健全な発達には、子どもたちを取り巻く他者(家族・保育者・友だち・地域社会等)との良好な関係づくりが不可欠であることを学ぶ。また、その中で子どもは、愛他的行動、道徳性、社会性、自立心等を育み、自らの存在を認められている感覚や「自分らしさ」を発揮していくことを学ぶ。さらに、「人間関係」の領域でのICTの活用方法を学び、保育構想に活用する方法を考える。

到達目標

・子どもの良好な育ちへ寄与する保育者としての心構えを習得する。
人間関係の体験を含んだ保育実践場面を具体的にイメージした指導計画を作成することができる。

事前事後学習

・該当授業回のテキストの関連箇所や配布する資料を授業回前後に読み、理解を深めながら取り組むこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	見学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	左記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている	
Ⅰ	保育者としての基礎的教養の習得	
Ⅱ	保育者としての基礎的技能の習得	
Ⅲ	保育及び援助の目的の理解	
Ⅳ	保育及び援助の対象の理解	
Ⅴ	保育及び援助の方法の理解	○

授業実施方法

講義	演習	実験	実習	実技
○	○			

試験実施の有無

実施する	実施しない
○	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	領域「人間関係」
2		2	子どもの生活の中で育まれる人間関係
3		3	子どもの遊びの中で育まれる人間関係
4		4	保育の展開とICTを活かした指導計画(1)-保育の構想と指導計画-
5		5	保育の展開とICTを活かした指導計画(2)-人間関係を育む保育展開-
6		6	指導計画と実践(1)-人間関係を育む保育の立案①-
7		7	指導計画と実践(1)-人間関係を育む保育の立案②-
8		8	指導計画と実践(2)-指導計画と評価①-
9		9	指導計画と実践(2)-指導計画と評価②-
10		10	多様な配慮と保育構想-個別の配慮-
11		11	多様な配慮と保育構想-個と集団の育ち-
12		12	小学校生活への接続-幼児期の終わりまでに育ってほしい「人間関係」とは-
13		13	小学校生活への接続-小学校生活と領域「人間関係」-
14		14	地域連携と保育の構想
15		15	講義全体のまとめ

授業外学習内容とその時間	前回の講義内容を理解し、概要を説明できるようにしておく(目安時間:各回約2時間)		
課題のフィードバック方法	学生の発表内容について、適宜教員から指導を行う。		
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験	60%	ディスカッション	有
レポート		プレゼンテーション	有
小テスト		スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)	30%	ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	10%	教室外学習	
その他		その他	

テキスト	ワークで学ぶ 保育内容「人間関係」、菊地篤子〔著〕、株式会社みらい
参考文献・推薦図書	文部科学省「幼稚園教育要領」、厚生労働省「保育所保育指針」、内閣府「幼保連携型認定こども園保育・教育要領」
関連のある授業科目	保育内容【人間関係】、保育の心理学、保育内容総論
資格等	幼稚園教諭二種免許状・保育士資格

科目名

保育内容【環境】

【1単位(演習)／幼児保育学科1年前期／卒業・保育士・幼免必修】【2クラス開講】

担当者

渡邊 容子

実務経験

科目

領域及び保育内容の指導法に関する科目

施行規則に定める科目区分又は事項等

保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)

授業の概要

まず、環境の意味を抑え、環境を取り巻く、5つの資源(社会的資源・物的資源・文化的資源・人的資源・天然(自然)資源)を具体的に理解する。
また、子どもが身近な環境と積極的にかかわり、好奇心・探求心をもち、それらを生活に取り入れていこうとする力、豊かな感性を育てる保育内容について学ぶ。

到達目標

・幼稚園教育要領における教育の基本、ねらい、内容並びに全体構造を理解した上で、領域「環境」のねらいと内容を理解する。
・幼児の発達段階を踏まえ、環境に興味や関心を示し、環境に対する豊かな感性を育てることを想定した指導案の作成が出来る。
・身近な環境、たとえば地域社会と積極的にかかわり、さらに小学校とのつながりを踏まえた上で領域の全体構造を理解する。

事前事後学習

・事前では、身近な環境に気付き、興味や関心を示すこと。
学習後は、学んだ内容を実際の生活の中に取り入れ豊かな感性を育てる。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のI～Vの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
I	保育者としての基礎的な教養の修得	
II	保育者としての基礎的な技能の修得	
III	保育及び援助の目的の理解	
IV	保育及び援助の対象の理解	
V	保育及び援助の方法の理解	○

授業実施方法	講義	演習	実験	実習	実技
	○	○			
試験実施の有無	実施する	実施しない			
	○				

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション:授業の概要説明	1	
2	「環境」とは何か	2	
3	環境—天然(自然)資源	3	
4	環境—社会的資源	4	
5	環境—人的資源	5	
6	環境—物的資源	6	
7	環境—文化的資源	7	
8	「保育所保育指針」の中の環境に関するねらい・内容	8	
9	「幼稚園教育要領」の中の環境に関するねらい・内容	9	
10	「認定こども園」の中の環境に関するねらい・内容	10	
11	環境と道徳性(規範意識)	11	
12	生活の中での図形・数量・文字の学び	12	
13	文化・伝統行事・地域社会とのつながり	13	
14	環境を踏まえた指導案の作成	14	
15	まとめ	15	

成績評価基準及び方法

学習態度（20%）、授業内提出物（20%）、小テスト（20%）、定期試験（40%）	
テキスト	参考文献・推薦図書
コンパス『保育内容環境』高橋貴志・目良秋子編著建帛社	「幼稚園教育要領」／「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」／「保育所保育指針」
関連のある授業科目	資格等
保育内容総論・保育内容指導法	幼稚園教諭二種免許・保育士資格

科目名

保育内容【言葉】

【1単位(演習)／幼児保育学科1年前期／卒業・保育士・幼免必修】

担当者

田中優也

実務経験

科目

領域及び保育内容の指導法に関する科目

施行規則に定める科目区分又は事項等

保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)

授業の概要

幼稚園、保育所の保育において育みたい資質能力を理解し、幼稚園教育要領、保育所保育指針などに示された当該領域のねらい及び内容について背景となる5領域と関連させて理解を深め、乳幼児の発達段階を理解し、主体的・対話的な学びを勘案し、具体的指導場面をイメージし、保育の実現方法について考慮し、身につける。

到達目標

・幼稚園教育要領、保育所保育指針に示された保育の基本を踏まえ、領域「言葉」のねらい及び内容を把握し、指導上の留意点を理解し、小学校の教科などの繋がりを考える。
・幼児の心情や認識、活動などを視野に入れた保育構想の重要性、領域「言葉」との特性などと関連した情報機器や教材などを保育構想に活用することができる。
・模擬保育とその振り返りで改善点を整理し、領域「言葉」の特性に応じた現代課題を知り、保育構想に取り組める。

事前事後学習

・毎授業の前に必ず、テキストの当該箇所を読んでおくこと。
・授業後には、ノートを整理し、資料などを復習しておくこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
I	保育者としての基礎的教養の修得	
II	保育者としての基礎的技能の修得	
III	保育及び援助の目的の理解	
IV	保育及び援助の対象の理解	
V	保育及び援助の方法の理解	○

授業実施方法	講義	演習	実験	実習	実技
	○	○			○
試験実施の有無	実施する	実施しない			
		○			

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション :言葉のもつ機能		
2	コミュニケーションの基本的理解		
3	5領域の概要と領域「言葉」のねらい・内容		
4	乳幼児の発達段階をふまえた内容と指導上の留意点		
5	保育における評価の考え方		
6	幼児が経験し身につける領域「言葉」の内容		
7	保育における絵本の読み聞かせの意義		
8	絵本の読み聞かせの実施		
9	絵本の読み聞かせの発表		
10	指導案の構造の理解		
11	指導案の作成の実施(3歳児)		
12	指導案の作成の実施(4歳以上児)		
13	指導案作成による模擬保育の実施とその振り返り		
14	領域「言葉」の特性に応じた現代的課題		
15	領域「言葉」の特性に応じた保育実践の動向		

授業外学習内容とその時間			
課題のフィードバック方法			
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験	70%	ディスカッション	
レポート		プレゼンテーション	
小テスト		スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	20%	教室外学習	
その他	10%	その他	

テキスト	テキスト:教育 保育シリーズ「保育内容 言葉」秋田喜代美・野口隆子 編著(光生館)
参考文献・推薦図書	「幼稚園教育要領」フレーベル館「保育所保育指針」フレーベル館、「幼保連携型認定こども園・保育要領解説」フレーベル館、随時資料を配布する。
関連のある授業科目	保育内容指導法、保育内容【表現Ⅰ】、保育内容【表現Ⅱ】など
資格等	幼稚園教諭二種免許・保育士資格

科目名

保育内容【表現Ⅰ】

《1単位(演習)／幼児保育学科1年前期／選択》

担当者

田邊裕子

実務経験

授業の概要

感性と表現に関する領域「表現」は、子どもの豊かな感性を育て感じたことや考えたことを表現する意欲を養い創造性を豊かにする観点から示したものである。そこで、子どもたちの日々の生活や遊びの中から子ども一人ひとりの表現を読み取り、子どもの個性を尊重し、それぞれの成長・発達に合わせた表現活動ができる保育者を目指す。
授業では、音楽・身体表現を中心に、保育の総合的な表現活動を展開する。また、創造的・即興的な表現活動を通して、豊かな感性や表現する力を養う。さらに保育内容を把握したうえで、幼児期における生活と遊びの中で親しまれている教材だけでなく、情報機器を活用した指導方法についても理解を深める。

到達目標

- ・子どもの生活や遊びを通して音楽表現や身体表現などを理解する。
- ・領域「表現」の特性及び幼児の経験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。
- ・子ども一人ひとりの表現力や創造力を伸ばすための工夫や指導の方法を習得する。
- ・グループ活動を通し、学生相互の学び合いにより豊かな感性や表現力を高める。

事前事後学習

- ・授業に関連した子どもの表現活動の事例を集め、マルチメディアを活用した発表や実践の準備をすること。
- ・事後学習として、個人およびグループ活動による発表や作品に対する評価・反省などを、保育者の専門技術に生かせるよう整理をして記録しておくこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	左記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
Ⅰ	保育者としての基礎的教養の修得	
Ⅱ	保育者としての基礎的技能の修得	
Ⅲ	保育及び援助の目的の理解	
Ⅳ	保育及び援助の対象の理解	
Ⅴ	保育及び援助の方法の理解	○

授業実施方法

	講義	演習	実験	実習	実技
		○			○
試験実施の有無	実施する	実施しない			
	○				

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	授業のねらいや進め方(オリエンテーション)	16	
2	領域「表現」のねらいと内容	17	
3	子どもの発達と音楽表現活動(情報機器使用)	18	
4	わらべうたとリズムあそび・手あそび	19	
5	生活と行事の歌(情報機器使用)	20	
6	季節の歌(春・夏)	21	
7	季節の歌(秋・冬)	22	
8	身近な歌(ディズニー・アニメソング)	23	
9	ICTを活用した音楽表現の指導法	24	
10	指導計画立案と評価に対する考え方(情報機器及び教材の活用法を含む)	25	
11	模擬保育(歌唱指導)に向けた計画立案(情報機器及び教材の活用法を含む)	26	
12	模擬保育(歌唱指導)に向けた準備と練習(情報機器及び教材の活用法を含む)	27	
13	模擬保育(歌唱指導)として指導実践の発表(情報機器及び教材の活用法を含む)	28	
14	指導案の作成と提出(情報機器及び教材の活用法を含む)	29	
15	まとめと振り返り	30	

授業外学習内容とその時間	毎回の授業計画に合わせて予習をしておくこと。授業後は、内容をまとめ復習し、次回授業に備える。各自専用ファイルを用意し、授業で配布したプリントや楽譜類を綴じ整理すること。弾き歌いの練習を怠らないこと。		
課題のフィードバック方法	課題の発表・模擬保育体験により、相互評価・自己評価結果のシェアリングによって、成果と課題を可視化する。		
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験		ディスカッション	
レポート		プレゼンテーション	
小テスト	10%	スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)	60%	ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	30%	教室外学習	
その他		その他	

テキスト	「幼児のための音楽教育」神原雅之・鈴木恵津子編著 教育芸術社 ※その他、適宜資料や楽譜を配布する。
参考文献・推薦図書	「保育者のためのピアノレッスン」清原貴子 鷺尾領子編著 権歌書房 「日本の子どもの歌」全国大学音楽教育学会編著 音楽之友社 ※その他、適宜授業中に紹介する。
関連のある授業科目	基礎音楽AB こどもと表現 I こどもの音楽遊び
資格等	

科目名

保育内容【表現Ⅱ】

《1単位(演習)／幼児保育学科1年前期／保育士必修》

担当者

森本直樹

実務経験

授業の概要

領域「表現」のねらい及び内容をふまえて、幼児造形表現の理論と実践、実技を学ぶ。造形要素による子どもの発達を理解し、教材研究をととして、様々な素材や用具、表現法に触れて理解する。また協同制作での対話や、造形遊び、描く、作る活動内容をととして、楽しさを味わい、保育者としての感性や造形表現力及び、指導方法を身につける。

到達目標

- ・領域「表現」のねらい及び内容について理解する。
- ・乳幼児の発達段階に応じた造形活動や学びについての課程を理解する。
- ・素材や用具、表現法に触れ、幼児造形活動の指導法や支援、基礎的な知識と技術を身につける。

事前事後学習

- ・指定された用具を持参すること。
- ・造形表現活動に関する題材や資料の収集をすること。
- ・授業内に作品が仕上がらない場合は、指定する期限までに完成させること。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている	
5	保育者としての基礎的教養の修得	
6	保育者としての基礎的技能の修得	
7	保育及び援助の目的の理解	
8	保育及び援助の対象の理解	
9	保育及び援助の方法の理解	○

授業実施方法

講義	演習	実験	実習	実技
○	○			○

試験実施の有無

実施する	実施しない
	○

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション:乳幼児の造形表現についての概観	16	
2	乳幼児の造形表現の理解:ねらい及び内容について	17	
3	観察をする:身近なもの①	18	
4	描く活動:色鉛筆画②	19	
5	描く表現と画材経験:モダンテクニック技法	20	
6	描く活動:組み合わせによる描画①	21	
7	描く活動:組み合わせによる描画②	22	
8	乳幼児の発達と造形表現活動	23	
9	造形表現の基礎:線描における表現	24	
10	造形表現の基礎:教材づくり	25	
11	描く活動:絵本から学ぶ描画①	26	
12	描く活動:絵本から学ぶ描画②	27	
13	描く活動:絵本から学ぶ描画③	28	
14	描く活動:絵本から学ぶ描画④(発表)	29	
15	まとめ:振り返り(ワークシート活動、レポート作成)	30	

授業外学習内容とその時間	毎回の授業計画に合わせて教科書を使い予習・復習を1時間程度しておく。		
課題のフィードバック方法	課題作品完成後、作品、ワークシートなどのポートフォリオを作成しておくこと。ポートフォリオの作成については、授業内で説明をする。		
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験		ディスカッション	有
レポート	20%	プレゼンテーション	有
課題等提出物	50%	スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)	20%	ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	10%	教室外学習	
その他		その他	

テキスト	『幼児造形の基礎-乳幼児の造形表現と造形教材-』 編著 樋口一成 萌文書林 2018
参考文献・推薦図書	『流れがわかる幼稚園・保育所実習』 発達年齢、季節や場所にあった指導案を考えよう 浅川繭子著他 萌文書林 2015
関連のある授業科目	こどもと表現Ⅱ、保育内容指導法、保育内容総論など
資格等	幼稚園教諭二種免許・保育士資格

科目名

保育内容指導法

《2単位(演習)／幼児保育学科1年通年／幼児必修》

担当者

岡山愛子

実務経験

幼稚園に勤務

授業の概要

保育内容を踏まえた指導に関する理解と子どもの発達課題に応じた遊びの効用を学習し、指導法について具体的・実践的に学ぶ。課題制作やレポート作成にも取り組みながら、保育現場での多様な展開を理解する。

到達目標

- ・子どもについての理解を深め、保育現場での基本的な指導法を習得する。
- ・保育計画における立案方法などの基礎的要素を理解する。
- ・園行事に対する事例や内容を研究し、実践を通して保育技術を身につける。

事前事後学習

毎授業の資料を振り返り、講義や演習の内容と合わせて整理すること。教材や指導案の作成においては授業時間内に成果を上げるため、授業に臨む前に資料収集や教材研究などの準備をしておくこと。予定の段階まで進まない場合は授業時間外での取り組みを行うこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
Ⅰ	保育者としての基礎的教養の修得	
Ⅱ	保育者としての基礎的技能の修得	
Ⅲ	保育及び援助の目的の理解	
Ⅳ	保育及び援助の対象の理解	
Ⅴ	保育及び援助の方法の理解	○

授業実施方法	講義	演習	実験	実習	実技
	○				○
試験実施の有無	実施する	実施しない			
	○				

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション:授業概要の説明・保育現場での指導法	1 6	絵本の特性
2	子ども理解と保育指導法の意義	1 7	絵本の読み聞かせの実践
3	子どもにとっての遊びの意義	1 8	保育に役立つ教材作成3:手袋人形作成①
4	子どもの発達と遊びの効用1(言葉)絵本・紙芝居	1 9	保育に役立つ教材作成4:手袋人形作成②
5	子どもの発達と遊びの効用2(造形)折り紙	2 0	手袋人形における作品の発表と振り返り
6	現代における子どもの実情	2 1	保育内容の指導(1):指導案作成の意義
7	3歳以上児における実習記録の意義	2 2	保育内容の指導(2):指導案の記入方法
8	3歳未満児における実習記録の意義	2 3	保育内容の指導(3):部分実習のための教材研究および指導案作成①
9	保育に役立つ教材作成1:ペープサート作成①	2 4	保育内容の指導(4):部分実習のための教材研究および指導案作成②
1 0	保育に役立つ教材作成2:ペープサート作成②	2 5	園行事における指導案作成の意義
1 1	教材発表と振り返り	2 6	園行事における指導案作成の実際
1 2	子どもの発達と遊びの効用3(造形)新聞紙遊び	2 7	園行事における指導案作成の発表
1 3	保育形態の特性	2 8	保育者としての自分を育てる(1)保育者としての自分を問う
1 4	保育の目標と計画	2 9	保育者としての自分を育てる(2)保育者として大切なこと
1 5	まとめ	3 0	まとめ

授業外学習内容 とその時間			
課題のフィード バック方法	製作課題を添削し、講義の際、学生に返却する。		
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験	50%	ディスカッション	有
レポート		プレゼンテーション	有
小テスト		スピーチ	有
発表(プレゼン・スピーチ等)	10%	ロールプレイ	有
平常点・授業への貢献度	10%	教室外学習	無
その他(課題提出)	30%	その他	

テキスト	「保育内容の指導法」名須川知子他 ミネルヴァ書房
参考文献・推薦図書	随時紹介する。
関連のある授業科目	保育内容五領域、保育内容総論、保育実習指導Ⅰなど
資格等	幼稚園教諭二種免許・保育士資格

科目名

国語表現法

《2単位(講義)／幼児保育学科2年前期／卒業必修》

担当者

山本八重子

実務経験

授業の概要

学生の表現(特に書く力)の低下は否めない。その表現への抵抗を少しでも取り除いて国語による表現力を高めるために、基礎となる読解力・論理的思考力(主張と根拠と理由)・文章構成力・正しく表記する力等をつけることが課題である。本講義では小論文、感想文、手紙文の書き方や詩歌、随想、児童文学を取り上げる。「書く」活動では新聞のコラムの書写、「読む」活動では朗読や読み聞かせ等を実施する。

到達目標

○文章を正しく理解し読解力や表現力をつけることができる。
○小論文を書くとき段落構成を考えて主張とその根拠・理由付け・具体例を記述することができる。
○語彙を増やし正しい表記をすることができる。原稿用紙にコラム等の書写をさせて評価の一つとしたい。

事前事後学習

ノートは必ず持参し配布されたプリントや資料はノートに貼り保存すること。また、講義を欠席した場合はプリントや資料を取りに来ることを徹底する。5回と10回は終了後ノートを提出すること。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のI～Vの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
I	保育者としての基礎的教養の修得	
II	保育者としての基礎的技能の修得	
III	保育及び援助の目的の理解	○
IV	保育及び援助の対象の理解	
V	保育及び援助の方法の理解	

授業実施方法

	講義	演習	実験	実習	実技
	○				
試験実施の有無	実施する	実施しない			
	○				

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション(表現力とは何だろう)	16	
2	自己紹介の仕方(原稿用紙の使い方 挨拶)	17	
3	文章表現(基礎編)原稿用紙の使い方、正しい表記	18	
4	実習礼状など手紙・はがきの書き方(敬語の使い方)	19	
5	実習日誌の書き方 コラム書写	20	
6	小論文と感想文の比較 原稿用紙 コラム書写	21	
7	小論文・感想文の比較と書き方 コラム書写	22	
8	小論文・報告文の書き方 コラム書写	23	
9	文章表現(応用編)、演習問題	24	
10	随筆(エッセイを読み取る力)要約	25	
11	詩歌と出会う(詩)	26	
12	絵本の世界 読み聞かせ	27	
13	絵本の世界 朗読 課題提示	28	
14	絵本の世界 朗読 課題提出	29	
15	国語表現法のまとめ	30	

授業外学習内容とその時間	新聞等の社説やコラムをよむこと。		
課題のフィードバック方法	課題について小論文にまとめた作品を添削して返却する。		
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験		ディスカッション	有
レポート	60%	プレゼンテーション	有
小テスト		スピーチ	有
発表(プレゼン・スピーチ等)	20%	ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	20%	教室外学習	
その他		その他	

テキスト	『保育者になるための国語表現』田上貞一郎
参考文献・推薦図書	新聞 コラム提示
関連のある授業科目	
資格等	幼稚園教諭2種免許

科目名

保育臨床相談

《2単位(講義)／幼児保育学科2年後期／保育士選択・幼免必修》

担当者

金戸憲子

実務経験

有(元幼稚園教諭・小中学校こころの相談員)

授業の概要

保育現場で見られる様々な問題についての事例を取り上げ、問題の捉え方、援助の方法を検討していく。具体的には、発達心理学、臨床心理学等の理論的背景をもとに、ディスカッションやロールプレイ等を通して、保育実践上、有益な知見を深める。

到達目標

・子どもや保護者が抱える心理的問題を理解し、基本的対応の仕方について学ぶ。
・保育現場で起こる様々な問題への対応について、自ら考える力を養う。

事前事後学習

該当授業回のテキストの関連箇所を授業回前に読んでおき、自分なりに理解を深めたうえで授業に臨むこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	見学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	左記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている	
Ⅰ	保育者としての基礎的教養の習得	
Ⅱ	保育者としての基礎的技能の習得	○
Ⅲ	保育及び援助の目的の理解	
Ⅳ	保育及び援助の対象の理解	
Ⅴ	保育及び援助の方法の理解	○

授業実施方法

講義	演習	実験	実習	実技
○	○			

試験実施の有無

実施する	実施しない
○	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	オリエンテーション(講義の目的と目標)・カウンセリングとは何か
2		2	子どもの発達の援助Ⅰ(0～2歳)
3		3	子どもの発達の援助Ⅱ(3～6歳)
4		4	子ども理解の意味と方法
5		5	カウンセリングの理論と方法
6		6	カウンセリング・マインド
7		7	園における教育相談の意義と活用
8		8	登園しづらい子どもの理解と援助
9		9	社会性の発達とそのつまずきへの理解と対応
10		10	遊びの意義と教育相談
11		11	発達障害の理解
12		12	子育て支援のあり方
13		13	園等における保護者への支援
14		14	地域社会・関係機関との連携
15		15	保育者のメンタルヘルス・講義全体のまとめ

授業外学習内容とその時間	授業前予習30分、復習30分		
課題のフィードバック方法	毎回の講義の最後に、講義内容についての気づきや感想を書く。また、次回講義の最初に全体を通してフィードバックする。		
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験	60%	ディスカッション	有
レポート		プレゼンテーション	
小テスト		スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)	20%	ロールプレイ	有
平常点・授業への貢献度	20%	教室外学習	
その他		その他	

テキスト	子育て・保育カウンセリングワークブック 清水勇・阿部裕子著 学事出版
参考文献・推薦図書	子ども理解とカウンセリングマインド-保育臨床の視点から- 青木久子・間藤侑・河邊貴子著 萌文書林 ピアヘルパーワークブック 日本教育カウンセラー協会編 図書文化
関連のある授業科目	こどもの理解と援助、臨床心理学
資格等	幼稚園教諭二種免許

科目名

教育実習

《4単位(実習)／幼児保育学科2年通年／幼免必修》

担当者

金戸憲子

実務経験

幼稚園教諭経験あり

授業の概要

大学で学んだ理論や知識が、いかに幼稚園等での教育・保育の内容・機能と関わっているかを知り、生きた実践の場で具体的な保育方法等について学ぶ機会とする。また、子どもとの関わりを通して、実習生自身が様々な働きかけを行うことにより、自らの教育・保育についての考えを深め、必要な技術を身に付ける機会とする。なお実習との前後に行われる教育実習指導において事前・事後指導を行い、幼稚園等での教育・保育に対する課題や認識を明確にしていく。

到達目標

- ・幼稚園等の生活に参加し、園の方針や一日の流れを理解している。
- ・保育全般に参加し、保育技術を習得している。
- ・子どもの個人差についての理解を深め、対応方法を学んでいる。
- ・安全及び疾病予防への配慮について理解している。
- ・保育の計画、実践、観察、記録、自己評価等について実際に取り組み、理解を深めている。
- ・職員間の役割分担や連携について理解している。
- ・保護者支援や地域社会等との連携について総合的に学んでいる。
- ・幼稚園教諭に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己の課題を明確化している。

事前事後学習

前半の教育実習では、観察実習を中心に行う。そのため、大学で学んだ理論・知識の整理を行い、観察の視点を養い、実習に臨むことを求める。その際、教育実習指導内での目標作成を通じて、明確な課題意識をもつ。実習の事後には、目標や実習日誌を振り返ることで、実習で得た学びや課題を明確にする。後半の教育実習では、前半の教育実習を踏まえて、改めて参加実習を念頭にした課題を設定し、教材研究を経て実習に臨む。

ディプロマポリシーに係る学習成果		学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
Ⅰ	保育者としての基礎的教養の修得	
Ⅱ	保育者としての基礎的技能の修得	○
Ⅲ	保育及び援助の目的の理解	
Ⅳ	保育及び援助の対象の理解	
Ⅴ	保育及び援助の方法の理解	

授業実施方法

講義	演習	実験	実習	実技
			○	○

試験実施の有無

実施する	実施しない
	○

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	
2	6月	2	11月
3	幼稚園・幼保連携型認定こども園実習	3	幼稚園・幼保連携型認定こども園実習
4	10日間	4	10日間
5		5	
6		6	
7		7	
8		8	
9		9	
10		10	
11		11	
12		12	
13		13	
14		14	
15		15	

授業外学習内容とその時間				
課題のフィードバック方法				
成績評価方法		評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験			ディスカッション	
レポート			プレゼンテーション	
小テスト			スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)			ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度			教室外学習	
その他		100%	その他	

テキスト	「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」
参考文献・推薦図書	適宜、紹介する。
関連のある授業科目	教育実習指導、保育・教職実践演習(幼稚園)
資格等	幼稚園教諭二種免許

科目名

教育実習指導

《1単位(演習)／幼児保育学科2年通年／幼免必修》

担当者

金戸 憲子

実務経験

幼稚園教諭経験あり

授業の概要

大学で学んだ理論や知識を、教育・保育という実践の場で具体的に活用するための方法について学習する。また、実習に向けての準備、実習の反省等を通して、子どもとの関わり方や、実習生自身が行う様々な働きかけを省察し、自らの教育・保育についての考えを深める。さらに、実習の前後に事前・事後指導を行い、幼児教育・保育に対する課題や認識を明確にしていく。

到達目標

- ・幼稚園での生活を学び、一日の流れを理解している。
- ・子どもの個人差についての理解を深め、対応方法を学んでいる。
- ・保育の計画、実践、観察、記録、自己評価等について基本的な事項を学び、実習に備えている。
- ・保護者支援や地域社会等との連携について総合的に学んでいる。
- ・安全及び疾病予防への配慮について理解している。
- ・幼稚園教諭に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己の課題を明確化している。

事前事後学習

教育実習指導の事前・事後学習としては、講義・演習時に指定された課題に取り組むことを重要視する。また、分からないことは教員に積極的に尋ねるよう要請する。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
I	保育者としての基礎的教養の修得	
II	保育者としての基礎的技能の修得	○
III	保育及び援助の目的の理解	
IV	保育及び援助の対象の理解	
V	保育及び援助の方法の理解	

授業実施方法

講義	演習	実験	実習	実技
	○			

試験実施の有無

実施する	実施しない
	○

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	授業オリエンテーション	16	
2	実習の意義・目的、目標の設定	17	
3	指導案の書き方	18	
4	実習記録の書き方	19	
5	教材研究(1)模擬設定保育(絵本の読み聞かせ)	20	
6	教材研究(2)模擬設定保育(表現活動)	21	
7	教育研究(1)保健・安全への配慮	22	
8	実習オリエンテーション	23	
9	実習反省会(前期)	24	
10	教材研究(3)模擬設定保育(主活動の導入)	25	
11	教材研究(4)模擬設定保育(主活動)	26	
12	教育研究(2)保護者等との連携	27	
13	実習オリエンテーション	28	
14	実習反省会(後期)	29	
15	実習の振り返り	30	

授業外学習内容とその時間	事前学習としては、授業内で指示した課題を行う(1時間)。 事後学習としては、授業内で配布した資料の復習を行う(2時間)。		
課題のフィードバック方法	フィードバックについては、授業内で全体と共有しながら適宜行う。		
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験		ディスカッション	
レポート		プレゼンテーション	
小テスト		スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)	60%	ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	40%	教室外学習	
その他		その他	

テキスト	「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の他、随時資料を配布する。
参考文献・推薦図書	適宜、紹介する。
関連のある授業科目	教育実習、教職(幼稚園)・保育実践演習
資格等	幼稚園教諭二種免許

科目名

教職(幼稚園)・保育実践演習

《2単位(演習)／幼児保育学科2年後期／保育士・幼免必修》

担当者

金戸憲子

実務経験

幼稚園教諭経験あり

授業の概要

本演習は、保育者としての準備性を高めるために、これまでの学修や実習を振り返り、自己の課題を把握するとともに、必要に応じて不足する知識・技能の修得を目指すものである。具体的には、保育者としての役割理解の深化、対人関係でのスキル獲得、幼児・人間理解の姿勢・思考術の向上、教材研究も含めた保育技術の研鑽等が挙げられる。

到達目標

・幼稚園教諭・保育士としての倫理観を理解し、責任感を養っている。
 ・保育者の基礎として、また保育者間、保護者・他機関との協働を視野に、対人関係能力に関わる理解を深め、スキルを習得している。
 ・指導案の作成、教材研究などを通して、保育に求められる知識、教養および技術を修得している。
 ・現代的な保育課題を理解し、それらに対処する上での基礎的な観点・思考術を得ている。

事前事後学習

履修カルテの整理を随時行う。演習を通して、明確にされた自己課題への取り組みを継続的に行う。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
Ⅰ	保育者としての基礎的教養の修得	
Ⅱ	保育者としての基礎的技能の修得	○
Ⅲ	保育及び援助の目的の理解	
Ⅳ	保育及び援助の対象の理解	
Ⅴ	保育及び援助の方法の理解	

授業実施方法

講義	演習	実験	実習	実技
	○			

試験実施の有無

実施する	実施しない
	○

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	オリエンテーションー学習の振り返り
2		2	対人関係理解とスキル獲得への一歩
3		3	保育技術の育成①
4		4	保育技術の育成②
5		5	保育技術の育成③
6		6	教職の意義と役割(外部講師)
7		7	幼稚園・保育所・認定こども園の学級経営
8		8	全実習の振り返りとこれからの課題の検討
9		9	保育技術の育成④
10		10	保育士の役割と倫理(外部講師)
11		11	保育者間の連携を図るロールプレイング
12		12	現代における保育の課題検討①
13		13	現代における保育の課題検討②
14		14	現代における保育の課題検討③
15		15	本演習の総括と反省会

授業外学習内容とその時間	事前学習としては、授業内で指示した課題を行う(1時間)。 事後学習としては、授業内で配布した資料の復習を行う(2時間)。		
課題のフィードバック方法	フィードバックについては、授業内で全体と共有しながら適宜行う。		
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験		ディスカッション	
レポート		プレゼンテーション	
小テスト		スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)	60%	ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	40%	教室外学習	
その他		その他	

テキスト	随時、レジユメ・資料を配布する。
参考文献・推薦図書	適宜、各回担当教員より紹介する。
関連のある授業科目	幼稚園教諭二種免許・保育士資格を得る上での、必修科目と関連する。
資格等	幼稚園教諭二種免許・保育士資格

科目名

保育原理

《2単位(講義)／幼児保育学科1年前期／卒業必修》

担当者

入江良英

実務経験

授業の概要

本講義では、保育者に求められる基礎・基本となる事項について取り扱う。まず、保育の意味を歴史的にたどるとともに、現代における社会的意義を検討する。また、「保育所保育指針」等における保育の基本と関連して、発達や環境という視点を用いて保育を捉える。それらを踏まえて、改めて保育内容と方法について、その原理を取り上げる。さらに、保育の思想・歴史から、保育を支える原理を確認し、現代的な課題についても検討・考察する。

到達目標

- ・保育に関する基本的な知識や姿勢を修得している。
- ・保育の制度、内容、方法について理解している。
- ・「保育所保育指針」の基本について理解している。
- ・保育の思想と現状について理解している。

事前事後学習

指定した文献やレジュメ等を授業前後で読み、理解を深めていくこと。ワークシートについては授業内で作業することが多いが、課題として配布し、その記入と提出を求める場合がある。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
I	保育者としての基礎的教養の修得	
II	保育者としての基礎的技能の修得	○
III	保育及び援助の目的の理解	○
IV	保育及び援助の対象の理解	
V	保育及び援助の方法の理解	

授業実施方法

講義	演習	実験	実習	実技
○				

試験実施の有無

実施する	実施しない
○	

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション	1	
2	保育とは何か①「保育」の意味とその概念	2	
3	保育とは何か②保育の社会的意義	3	
4	保育とは何か③保育所保育	4	
5	保育の基本①発達のまなざし	5	
6	保育の基本②環境を通じた保育	6	
7	保育の目標と内容－保育所保育指針	7	
8	保育の方法①生活と遊びを通じた総合的な保育	8	
9	保育の方法②保育形態	9	
10	保育の方法③保育の計画・記録・評価	10	
11	保育の思想と歴史①ルソーとペスタロッチ	11	
12	保育の思想と歴史②オウエンとフレーベル	12	
13	保育の現状と課題①諸外国での現状	13	
14	保育の現状と課題②幼稚園とこども園	14	
15	講義のまとめ	15	

授業外学習内容とその時間	事前学習としては、授業内で指示した課題を行う(1時間)。 事後学習としては、授業内で配布した資料の復習を行う(2時間)。			
課題のフィードバック方法	フィードバックについては、授業内で全体と共有しながら適宜行う。			
成績評価方法	評価割合		アクティブラーニング	有無
定期試験	50%		ディスカッション	○
レポート	40%		プレゼンテーション	○
小テスト			スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)			ロールプレイ	○
平常点・授業への貢献度	10%		教室外学習	
その他			その他	

テキスト	随時、レジュメ・資料を配布する。
参考文献・推薦図書	適宜、紹介する。
関連のある授業科目	保育者論、教育原理
資格等	保育士資格

科目名

こども家庭福祉

《2単位(講義)／幼児保育学科1年後期》

担当者

宮崎 由紀子

実務経験

授業の概要

保育者として、こどもの権利を守るための基本的な知識を修得する。
こども家庭福祉を取り巻く環境は変化が激しく、厳しい状況にある。授業においては、歴史の変遷を学ぶとともに最新の状況について把握する。また、こども家庭福祉を構成する制度や実施体制や、支援現場における課題について学んでいく。

到達目標

- ・現代社会におけるこども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する
- ・子どもの人権擁護について理解する
- ・こども家庭福祉の制度や実践体系等について理解する
- ・こども家庭福祉の現状と課題について理解する
- ・こども家庭福祉の動向と展望について理解する

事前事後学習

事前学習として、次回授業に該当するテキストについて通読しておく。事後学習については、授業で学んだことを振り返り、課題(レポート等)についてまとめること。
こどもに関する新聞記事等で興味関心を広げるようにしてほしい。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
Ⅰ	保育者としての基礎的な教養の修得	
Ⅱ	保育者としての基礎的な技能の修得	
Ⅲ	保育及び援助の目的の理解	○
Ⅳ	保育及び援助の対象の理解	
Ⅴ	保育及び援助の方法の理解	

授業実施方法	講義	演習	実験	実習	実技
		○			○
試験実施の有無	実施する	実施しない			
	○				

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	こども家庭福祉の意義と歴史の変遷
2		2	現代社会のこども家庭福祉
3		3	子どもの人権擁護の歴史の変遷
4		4	児童の権利に関する条約と現代
5		5	こども家庭福祉の制度と法体系
6		6	児童福祉施設
7		7	子どもかて福祉の専門職
8		8	少子化と地域子育て支援
9		9	母子保健と子どもの健全育成
10		10	子ども虐待・DVとその防止
11		11	社会的養護
12		12	障害のあるこどもへの対応
13		13	特別な配慮のこどもとその家庭への対応
14		14	日本におけるこども家庭福祉の動向と展望
15		15	諸外国の動向

授業外学習内容とその時間	事後学習としては、授業内で配付した資料・ワークについて復習を行う(2時間)		
課題のフィードバック方法	フィールドについては、授業内で全体と共有しながら適宜行う。		
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験	80%	ディスカッション	
レポート		プレゼンテーション	
小テスト	10%	スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	10%	教室外学習	
その他		その他	

テキスト	『新版 保育・幼児教育のフロンティア』
参考文献・推薦図書	随時、紹介する
関連のある授業科目	社会福祉、社会的養護、こども家庭支援論
資格等	保育士資格

科目名

こども家庭福祉

《2単位(講義)／幼児保育学科1年後期》

担当者

宮崎 由紀子

実務経験

授業の概要

保育者として、こどもの権利を守るための基本的な知識を修得する。
こども家庭福祉を取り巻く環境は変化が激しく、厳しい状況にある。授業においては、歴史の変遷を学ぶとともに最新の状況について把握する。また、こども家庭福祉を構成する制度や実施体制や、支援現場における課題について学んでいく。

到達目標

- ・現代社会におけるこども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する
- ・子どもの人権擁護について理解する
- ・こども家庭福祉の制度や実践体系等について理解する
- ・こども家庭福祉の現状と課題について理解する
- ・こども家庭福祉の動向と展望について理解する

事前事後学習

事前学習として、次回授業に該当するテキストについて通読しておく。事後学習については、授業で学んだことを振り返り、課題(レポート等)についてまとめること。
こどもに関する新聞記事等で興味関心を広げるようにしてほしい。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
Ⅰ	保育者としての基礎的な教養の修得	
Ⅱ	保育者としての基礎的な技能の修得	
Ⅲ	保育及び援助の目的の理解	○
Ⅳ	保育及び援助の対象の理解	
Ⅴ	保育及び援助の方法の理解	

授業実施方法	講義	演習	実験	実習	実技
			○		
試験実施の有無	実施する	実施しない			
	○				

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	こども家庭福祉の意義と歴史の変遷
2		2	現代社会のこども家庭福祉
3		3	子どもの人権擁護の歴史の変遷
4		4	児童の権利に関する条約と現代
5		5	こども家庭福祉の制度と法体系
6		6	児童福祉施設
7		7	子どもかて福祉の専門職
8		8	少子化と地域子育て支援
9		9	母子保健と子どもの健全育成
10		10	子ども虐待・DVとその防止
11		11	社会的養護
12		12	障害のあるこどもへの対応
13		13	特別な配慮のこどもとその家庭への対応
14		14	日本におけるこども家庭福祉の動向と展望
15		15	諸外国の動向

授業外学習内容とその時間	事後学習としては、授業内で配付した資料・ワークについて復習を行う(2時間)		
課題のフィードバック方法	フィールドについては、授業内で全体と共有しながら適宜行う。		
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験	80%	ディスカッション	
レポート		プレゼンテーション	
小テスト	10%	スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	10%	教室外学習	
その他		その他	

テキスト	『新版 保育・幼児教育のフロンティア』
参考文献・推薦図書	随時、紹介する
関連のある授業科目	社会福祉、社会的養護、こども家庭支援論
資格等	保育士資格

科目名

こども家庭支援の心理学

《2単位(講義)／幼児保育学科 年 期／幼免許必》【2クラス開講】

担当者

守田典子

実務経験

授業の概要

子ども家庭支援をおこなうことは、子どもの心理理解にとどまらず、家族メンバーの理解が欠かせない。年齢を背景とする心理状況、ライフコースによる家庭背景、家族の集団としての力動や、ライフイベント(妊娠・出産・転職や転勤・離婚や再婚等)に伴うストレスなどもある。それぞれのテーマごとに、概観しながら支援について学ぶ。

到達目標

子ども家庭支援に必要な心理的テーマについて認識し、困難さや課題について理解することが出来る。

事前事後学習

講義後の振り返りを各自まとめておくこと(感想や印象に残ったことでもよい)

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
I	保育者としての基礎的教養の修得	
II	保育者としての基礎的技能の修得	
III	保育及び援助の目的の理解	
IV	保育及び援助の対象の理解	○
V	保育及び援助の方法の理解	

授業実施方法	講義	演習	実験	実習	実技
	○				
試験実施の有無	実施する	実施しない			
	○				

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		16	オリエンテーション
2		17	生涯発達とは
3		18	乳幼児期から学童期にかけての発達
4		19	学童後期から青年期にかけての発達
5		20	成人期・老年期における発達
6		21	子育てを取り巻く社会的状況
7		22	家族・家庭の意義と機能
8		23	親子・家族関係の理解
9		24	子育ての経験と親としての育ち
10		25	多様な家庭形態とその理解
11		26	特別な配慮を必要とする家庭1
12		27	特別な配慮を必要とする家庭2
13		28	発達支援の必要な子どものいる家庭
14		29	子どもの精神保健
15		30	小テスト

授業外学習内容 とその時間				
課題のフィード バック方法				
	成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
	定期試験	60%	ディスカッション	
	レポート		プレゼンテーション	
	小テスト	30%	スピーチ	
	発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	
	平常点・授業への貢献度	10%	教室外学習	
	その他		その他	

テキスト	『シリーズ知のゆりかご 子ども家庭支援の心理学』青木紀久代編、みらい
参考文献・推薦図書	随時紹介
関連のある授業科目	
資格等	

科目名

こどもの理解と援助

《1単位(演習)／幼児保育学科1年後期／保育士必修、幼免選択》

担当者

金戸憲子

実務経験

有(元幼稚園教諭)

授業の概要

本講義では、子どもを理解するための基本的な考え方や方法を学び、保育士の援助や態度について事例やワークを通して具体的に理解していくことを目的とする。また、発達を援助するために重要な心身発達のアセスメント、子どもの経験や学習過程について理解を深める。

到達目標

・子ども理解の意義について説明できる。
 育における環境構成の重要性について説明できる。
 記録、省察、評価の方法について理解できる。
 に応じた援助とかかわり方を説明できる。

事前事後学習

・テキストの関連箇所を授業回前後に読み、理解を深めながら取り組む。
 状況に応じて、グループ学習等も求めるため、出席を重視する。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	見学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	左記の3つの学習成果は以下のI～Vの5つの要素から構成される
3	各種実習や専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている	
I	保育者としての基礎的教養の習得	
II	保育者としての基礎的技能の習得	
III	保育及び援助の目的の理解	○
IV	保育及び援助の対象の理解	
V	保育及び援助の方法の理解	

授業実施方法

講義	演習	実験	実習	実技
○	○			

試験実施の有無

実施する	実施しない
○	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	オリエンテーション・保育における子ども理解の意義
2		2	子どもに対するかかわりと共感的理解
3		3	子どもの生活や遊び
4		4	保育における人的環境としての保育者と子どもの発達
5		5	子ども相互の関わりと関係づくり
6		6	集団における経験と育ち
7		7	発達における葛藤やつまずき
8		8	保育の環境の理解と構成
9		9	環境の変化や移行
10		10	子ども理解のための観察・記録・省察・評価
11		11	子ども理解のための職員間の対話
12		12	子ども理解のための保護者との情報共有
13		13	発達の課題に応じた援助と関わり
14		14	特別な配慮を必要とする子どもの理解と援助
15		15	発達の連続性と就学への支援・講義全体のまとめ

授業外学習内容とその時間	前回の講義内容を理解し、他者に説明できるようにしておく(目安時間:各回約2時間)		
課題のフィードバック方法	学生の発表内容について、適宜教員から指導を行う。		
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験		ディスカッション	有
レポート	50%	プレゼンテーション	有
小テスト	10%	スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)	20%	ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	20%	教室外学習	
その他		その他	

テキスト	「子どもの理解と援助演習ブック」松本峰雄監修 ミネルヴァ書房
参考文献・推薦図書	「子どもの理解と援助」藪中征代・玉瀬友美編著 萌文書林 「子ども理解の理論及び方法―ドキュメンテーション(記録)を活用した保育―」入江礼子・小原敏郎著 萌文書林
関連のある授業科目	保育の心理学、子ども家庭支援の心理学
資格等	保育士資格・ピアヘルパー認定資格

科目名

社会的養護 I

《2単位(講義)／幼児保育学科1年前期・保育士資格必修・1クラス開講》

担当者

桐原 誠

実務経験

児童養護施設に勤務

授業の概要

社会的養護とは、「保護者のない児童や、保護者に監護させることが適当でない児童を、公的責任で社会的に養育し、保護するとともに、養育に大きな困難を抱える家庭への支援を行うこと」である。本講義では、社会的養護の意義と歴史の変遷を学び、そうした家庭を支える児童福祉施設職員、里親、行政の現状に触れていながら今日における社会的養護の課題について具体的に考察していく。

到達目標

- ・社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する
- ・施設養護の意味と施設の機能・役割を理解する
- ・社会的養護の制度や実施体系等を理解する
- ・児童の人権擁護や自立支援について理解する

事前事後学習

- ・事前に教科書を読んで予習しておきましょう。
- ・講義後は習った箇所を復習しましょう。
- ・板書したものは必ずノートに記入しましょう。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のI～Vの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
I	保育者としての基礎的な教養の修得	
II	保育者としての基礎的な技能の修得	
III	保育及び援助の目的の理解	○
IV	保育及び援助の対象の理解	
V	保育及び援助の方法の理解	

授業実施方法

講義	演習	実験	実習	実技
○				

試験実施の有無

実施する	実施しない
○	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション	16	
2	社会的養護の現状	17	
3	社会的養護の歴史の変遷と今日的課題	18	
4	社会的養護の制度と実施体系について	19	
5	児童養護の理念と施設養護の原理・原則	20	
6	子どもの権利擁護について	21	
7	要養護児童の発達課題と養護の在り方	22	
8	児童養護施設の領域と概要	23	
9	施設養護における理論と実践	24	
10	ソーシャルワークの方法と技術	25	
11	施設と関係機関の連携	26	
12	施設職員の専門性と子ども観について	27	
13	里親とは何か	28	
14	社会的養護の課題と今後の展望	29	
15	総括	30	

成績評価基準及び方法

学習態度(30%)、レポート(20%)、定期試験(50%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「新選・児童の社会的養護原理」(榎みらい) 「教育と教職のフロンティア」 晃洋書房	随時紹介
関連のある授業科目	資格等
こども家庭福祉 社会的養護Ⅱ	保育士資格

科目名

社会的養護Ⅱ

《1単位(演習)／幼児保育学科1年後期・保育士資格必修・1クラス開講》

担当者

桐原 誠

実務経験

児童養護施設に勤務

授業の概要

社会的養護の役割とは、子どもの権利擁護を基本として、子どもたちが安全且つ安心できる生活を保障し、社会的自立を見据えて支援していくものである。本科目は演習科目である為、児童福祉施設における支援の在り方に焦点をあて、保育士の専門性やソーシャルワーク、自立支援計画と内容、地域社会・学校との関係作り等、事例を通して理解を深めていく。

到達目標

- ・施設養護や社会的養護の実態を学ぶ
- ・現場で実践できるソーシャルワークの方法と技術の習得
- ・施設で生活する子どもたちの支援について、事例等を通して考える力を養う
- ・児童観や施設養護観を養う

事前事後学習

- ・事前に教科書を読んで予習しておきましょう。
- ・講義後は習った箇所を復習しましょう。
- ・板書したものは必ずノートに記入しましょう。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
Ⅰ	保育者としての基礎的教養の修得	
Ⅱ	保育者としての基礎的技能の修得	
Ⅲ	保育及び援助の目的の理解	
Ⅳ	保育及び援助の対象の理解	
Ⅴ	保育及び援助の方法の理解	○

授業実施方法

講義	演習	実験	実習	実技
○	○			

試験実施の有無

実施する	実施しない
○	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	オリエンテーション
2		2	社会的養護の背景と捉え方
3		3	施設養護の目的と機能
4		4	児童虐待の現状と課題
5		5	児童福祉施設における養護内容①
6		6	児童福祉施設における養護内容②
7		7	コミュニケーションスキルについて
8		8	個に応じた自立支援計画と内容
9		9	ソーシャルワークの技法①
10		10	ソーシャルワークの技法②
11		11	施設養護の実践と方法①
12		12	施設養護の実践と方法②
13		13	施設と関係機関の連携
14		14	施設職員の資質と倫理
15		15	総括

成績評価基準及び方法

学習態度(30%)、定期試験(70%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「社会的養護Ⅱ」(株)萌文書林 「改訂新版 子ども家庭福祉のフロンティア」晃洋書房	随時紹介
関連のある授業科目	資格等
こども家庭福祉 社会的養護Ⅰ	保育士資格

科目名

こどもの保健

《4単位(講義)／幼児保育学科1年通年／卒業・保育士必修》

担当者

田中優也

実務経験

授業の概要

子どもは絶えず成長し、健康な体と健全な心を育むためには、健康が保持・増進されなければならない。そのために、子どもの成長・発達、栄養・生活への適応や、養護・社会の制度や施策、また病気や事故などの特徴・対応・予防について学び保育士として必要な知識を身につける。

到達目標

- 1.子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。
- 2.子どもの身体発育や生理機能及び、運動機能並びに精神機能の発達と保健について理解する。
- 3.子どもの疾病とその予防法及び適切な対応について理解する。
- 4.子どもの精神保健とその課題等について理解する。
- 5.保育における環境及び衛生管理並びに安全管理について理解する。
- 6.施設等における子どもの心身の健康及び安全の実施体制について理解する。

事前事後学習

毎授業の前に『』の当該箇所を読んでおくこと。
授業後にはノートを整理しておくこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
Ⅰ	保育者としての基礎的な教養の修得	
Ⅱ	保育者としての基礎的な技能の修得	
Ⅲ	保育及び援助の目的の理解	
Ⅳ	保育及び援助の対象の理解	○
Ⅴ	保育及び援助の方法の理解	

授業実施方法

	講義	演習	実験	実習	実技
	○	○			○
試験実施の有無	実施する	実施しない			
		○			

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	○・R 生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目	16	
2	健康の概念と健康指標	17	
3	地域における保健活動と児童虐待防止	18	
4	現代社会における子どもの健康に関する現状と課題	19	
5	身体発育と保健	20	
6	生理機能の発達と保健	21	
7	運動、精神機能の発達保健	22	
8	子どもの疾病の特徴、その予防と適切な対応	23	
9	免疫とアレルギー疾患	24	
10	子どもの疾病の特徴、その予防と適切な対応	25	
11	慢性疾患	26	
12	子どもの疾病の予防と適切な対応	27	
13	発熱・嘔吐・下痢	28	
14	小児期からの生活習慣の予防の重要性	29	
15	生活習慣病とは	30	
	保育環境と衛生・安全管理		
	保育環境整備と保健・食中毒への対応		
	保育環境と衛生・安全管理		
	事故防止と安全対策・危機管理		
	健康及び安全の実施体制		
	職員間の連携の組織的取組・母子保健対策と保健		
	保育所における避難訓練		
	まとめ		

授業外学習内容とその時間			
課題のフィードバック方法			
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験	70%	ディスカッション	
レポート		プレゼンテーション	
小テスト		スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	30%	教室外学習	
その他		その他	
テキスト	「図表で学ぶ子どもの保健Ⅰ」 加藤忠明・岩田力編著 建帛社		
参考文献・推薦図書	「からだのしくみ全書」 高橋健一 中央文化社		
関連のある授業科目	子どもの健康と安全、子どもの食と栄養、乳児保育		
資格等	保育士資格		

科目名

子どもの食と栄養

《2単位(演習)／幼児保育学科2年前期・後期／卒業必修》【2クラス開講】

担当者

田脇 祥子

実務経験

授業の概要

保育士が接する子どもたちは、日々休むことなく成長し続けている。その発育・発達を、最大限サポートして行くためには、成長の源である食べ物(栄養)についての理解を深め、豊かで健康な人々を育み、確保するために、保育に関わる専門家を目指す学生が栄養の重要性を学び、それを子育てに関わる人々に発信していけるように、講義・演習・課題を通して技術を習得させていく。

到達目標

食事は単なる栄養源だけではなく、美味しく食べることで、心をも育むものである。小児を含め、養育者に対して「食育」が行える「保育士」として、知識を習得させる。また、自分自身の健康管理から、正しい食生活が送れるような生活習慣の改善に結びつける

事前事後学習

授業には、教科書を必ず持参し、授業中は、資料に記載してある重要項目を必ず見直し、重要部分はチェックしておく。調理実習では、調理の基本を理解し、安心・安全でおいしい料理を作ることを念頭において行うこと。演習では、グループで、食育媒体作成と発表を行うため、かねてより班のメンバーとの友好を築いておくこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
Ⅰ	保育者としての基礎的教養の修得	
Ⅱ	保育者としての基礎的技術の修得	
Ⅲ	保育及び援助の目的の理解	
Ⅳ	保育及び援助の対象の理解	○
Ⅴ	保育及び援助の方法の理解	

授業実施方法	講義	演習	実験	実習	実技
	○	○		○	
試験実施の有無	実施する	実施しない			
	○				

授業計画(項目・内容)

回	前期・後期	回	前期・後期
1	1、子どもの健康と食生活の意義	16	実習〔保育所給食(3～5歳)〕
2	調理実習オリエンテーション	17	E子どもの発育・発達と食生活(学童期)
3	2、A、栄養の基本的概念と食事摂取基準	18	実習(学校給食の献立)
4	実習(朝ご飯をつくろう)	19	F、生涯発達と食生活
5	B、栄養の基本的知識1～2	20	実習〔保育所給食おやつ〕
6	実習(20歳女子の1日の献立中口絵⑧)	21	4、食育の基本と内容1～2
7	B、栄養の基本的知識3～4～5	22	実習〔保育園児のお弁当〕
8	実習(幼児期の食事)1～2歳	23	食育の基本と内容3～6
9	3、A子どもの発育・発達と食生活	24	実習(行事食・七夕・クリスマス・おせちなど)
10	演習(体格指数と栄養評価)	25	5、家庭や児童福祉施設における食事と栄養
11	B子どもの発育・発達と食生活(胎児期)	26	実習〔保育所給食(お誕生会メニュー)〕
12	実習(妊娠期の食事)	27	6、特別な配慮を要する子どもの食と栄養
13	C子どもの発育・発達と食生活(離乳期)	28	演習〔保育園での食育媒体を作成〕
14	実習(離乳食を作ろう)	29	演習〔保育園での食育媒体を作成〕
15	D子どもの発育・発達と食生活(幼児期)	30	演習〔食育媒体の発表〕

授業外学習内容とその時間			
課題のフィードバック方法			
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	
定期試験	60%	ディスカッション	
レポート	10%	プレゼンテーション	
製作物	20%	スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	10%	教室外学習	
その他		その他	

テキスト	「最新 子どもの食と栄養」 編著 学建書院
参考文献・推薦図書	「見てわかる！栄養の図解辞典」中村丁次 新食品成分表2020年版 文部科学省学術審議会
関連のある授業科目	乳児保育 I・子どもの保健・子どもの健康と安全
資格等	保育士資格

乳児保育 I

《2単位(講義)／幼児保育学科1年前期／保育士必修》

担当者

澤田 美智子

実務経験

保育園に勤務

授業の概要

乳幼児期は、人間としての基礎が培われる大変重要な時期である。特に人生の初期に出会う保育者には高い専門性と豊かな人間性が求められる。更に、子育てに対する不安や悩みを抱える保護者を支援する役割も求められている。
授業では、0歳児から2歳児までの発達特性、心と体の育ちにかかわる保育のあり方、子育て支援、また保育士の専門性についても学び、乳児保育の意義について考えたい。

到達目標

必要な知識を習得し、感性豊かな保育者を目指す
1. 乳児期における発育・発達や援助のあり方を理解する。
2. 乳児保育の専門性について必要な知識を習得する。
3. 乳児保育の実践について、保育現場を踏まえながら学びを生かした対応ができる。

事前事後学習

① テキストを事前によく読んだり、学ぶべき内容を把握する。
② 講義内容をまとめ、興味関心を深め楽しめる工夫をする。
③ 学んだことを活かし、実習など現場で実践できるようにする。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技術を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種時実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている	
I	保育者としての基礎的な教養の修得	
II	保育者としての基礎的な技能の修得	
III	保育及び援助の目的の理解	
IV	保育及び援助の対象の理解	
V	保育及び援助の方法の理解	○

授業実施方法

講義	演習	実験	実習	実技
○				

試験実施の有無

実施する	実施しない
	○

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション・乳児保育とは何か		
2	乳児保育の歴史及び現状と課題		
3	「保育所保育指針」に学ぶ		
4	6か月未満の子どもの育ちと保育内容		
5	6か月以上1歳未満の子どもの育ちと保育内容		
6	1歳以上2歳未満の子どもの育ちと保育内容		
7	2歳～3歳の子どもの育ちと保育内容		
8	乳児保育の環境; 養護と心地よい生活の場		
9	乳児保育の環境; 感染症対策と事故防止		
10	乳幼児の遊び; 遊びの意味		
11	乳幼児の遊び; 遊びと環境構成		
12	乳幼児の遊び; 発達を踏まえた援助		
13	乳児保育の指導計画: 記録と評価		
14	乳児保育における子育て支援		
15	乳児保育における連携・協働		

授業外学習内容とその時間	・授業計画の単元について、テキスト及び参考文献等を読み授業に臨むこと また、授業後も資料等で学びの確認を行うこと(1～2時間程度) ・メディア等で取り上げられている保育や子育て支援について問題意識を持つ		
課題のフィードバック方法	・フィードバックとして、課したレポートについてコメントを返す		
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験	0%	ディスカッション	有
レポート	50%	プレゼンテーション	有
小テスト	0%	スピーチ	有
発表(プレゼン・スピーチ等)	20%	ロールプレイ	有
平常点・授業への貢献度	30%	教室外学習	無
その他		その他	

テキスト	「見る考える創り出す乳児保育ⅠⅡ」萌文書林 保育所保育指針解説(厚生労働省) ※必要に応じて資料配布
参考文献・推薦図書	講義で学ぶ乳児保育(わかば社) 育ちの理解と指導計画(小学館) 保育原理(全国社会福祉協議会) 愛着関係をはぐくむ保育(学研)
関連のある授業科目	子どもの保健・子どもと健康・乳児保育Ⅱ
資格等	保育士資格

乳児保育Ⅱ

《1単位(演習)／幼児保育学科1年後期／保育士必修》

担当者

澤田 美智子

実務経験

保育園に勤務

授業の概要

前期に学んだ基礎知識を基に、保育実習で得た実体験をいかしながら、乳児の心と体の発達や保育室の環境構成、保育の方法、援助のポイントについて、より詳細に具体的に学びを深める。また、乳児保育の計画立案や保育の記録について実践したり、実際の保育の場面の事例検討などを通して、保育者としての使命と役割について考えていく。

到達目標

必要な知識を習得し、感性豊かな保育者を目指す
1. 乳児期における発育・発達や援助のあり方を理解する。
2. 乳児保育の専門性について必要な知識を習得する。
3. 乳児保育の実践について、保育現場を踏まえながら学びを生かした対応ができる。

事前事後学習

① テキストや参考文献をよく読んだり、学ぶべき内容を把握する。
② 講義内容をまとめ、興味関心を深め、自らが楽しめる工夫をする。
③ 学んだことを活かし、実習など現場で実践できるようにする。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技術を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種時実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている	
I	保育者としての基礎的な教養の修得	
II	保育者としての基礎的な技能の修得	
III	保育及び援助の目的の理解	
IV	保育及び援助の対象の理解	
V	保育及び援助の方法の理解	○

授業実施方法

講義	演習	実験	実習	実技
○				○

試験実施の有無

実施する	実施しない
	○

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
		1	乳児保育の意義“現場での保育者のかかわり”とは
		2	6か月未満児の子どもの保育
		3	6か月以上1歳未満の子どもの保育
		4	1歳以上3歳未満児の子どもの保育
		5	保育の場における援助と環境(情緒の安定)
		6	保育の場における援助と環境(食事・排泄)
		7	保育の場における援助と環境(睡眠・休息)
		8	保育の場における援助と環境(清潔・着脱)
		9	乳児保育における健康と安全
		10	0歳児の保育内容と遊び
		11	1歳以上3歳未満児の保育内容と遊び
		12	乳児保育における計画と評価①
		13	乳児保育における計画と評価②
		14	乳児保育を支える連携
		15	乳児保育の使命とこれからの課題

授業外学習内容とその時間	<ul style="list-style-type: none"> ・授業計画の単元について、テキスト及び参考文献等を読み授業に臨むこと また、授業後も資料等で学びの確認を行うこと(1～2時間程度) ・メディア等で取り上げられている保育や子育て支援について問題意識を持つこと 		
課題のフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> ・フィードバックとして、課したレポートについてコメントを返す 		
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験	0%	ディスカッション	有
レポート	50%	プレゼンテーション	有
小テスト	0%	スピーチ	有
発表(プレゼン・スピーチ等)	20%	ロールプレイ	有
平常点・授業への貢献度	30%	教室外学習	無
その他		その他	

テキスト	「見る考える創り出す乳児保育ⅠⅡ」萌文書林 保育所保育指針解説(厚生労働省) ※必要に応じて資料配布
参考文献・推薦図書	乳児保育演習ブック(ミネルヴァ書房) 育ちの理解と指導計画(小学館) 思いをつなぐ保育の環境(中央法規)
関連のある授業科目	子どもの保健・子どもの健康と安全・乳児保育Ⅰ
資格等	保育士資格

科目名

障害児保育

《2単位(演習)／幼児保育学科1年通年／選択必修・保育士必修》

担当者

國生 絵美

実務経験

児童施設に勤務

授業の概要

障がいについての理解を深め、保育する上での留意点や支援の方法を学ぶ。療育機関等について知識を深める。自分の中にある障がい観と向き合い、人と人がつながりあうことの大切さを学ぶ。

到達目標

- ・どんな子どもであれ、自信を持って寄り添い関われる保育者であることを目指す。
- ・分らないことを分らないと質問したり、分かろうと努力する。
- ・障がいについての正しい理解をもち、より良い支援の技術を身に付ける。
- ・障がいのある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について学ぶ。

事前事後学習

- ・事前学習として、毎授業前に必ず当該箇所テキストを読んでおくこと。
- ・事後学習として、テキスト及びノート、配布資料に目を通し、復習をおこなうこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
Ⅰ	保育者としての基礎的教養の修得	
Ⅱ	保育者としての基礎的技能の修得	
Ⅲ	保育及び援助の目的の理解	
Ⅳ	保育及び援助の対象の理解	
Ⅴ	保育及び援助の方法の理解	○

授業実施方法

講義	演習	実験	実習	実技
○				

試験実施の有無

実施する	実施しない
○	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	・オリエンテーション 障がいとは何かを考える	16	・障がいの理解と保育支援③
2	・障がい保育の歴史	17	・肢体不自由児・脳性麻痺
3	・発達とは	18	・重症心身障害児・医療的ケア
4	・発達と障がい	19	・視覚・聴覚障害児・言語障害
5	・障がいの理解と保育支援 ①	20	・多様な支援を必要とする子ども
6	・知的障害	21	・指導計画の作成と記録
7	・染色体異常	22	・子どもたちの遊びや環境
8	・病弱	23	・こどもの視点・他者とのやりとり
9	・障がいの理解と保育支援 ②	24	・職員間の協働・連携
10	・自閉症スペクトラム①	25	・保護者や家族に対する理解と支援
11	・自閉症スペクトラム②	26	・専門機関との連携
12	・学習障害	27	・保育の現状と課題
13	・注意欠如多動症	28	・子どもの理解と支援
14	・発達性強調運動障害	29	・保育士に求められているもの
15	・前期のまとめ	30	・総括

授業外学習内容とその時間				
課題のフィードバック方法				
成績評価方法	評価割合		アクティブラーニング	有無
定期試験	60%		ディスカッション	
レポート			プレゼンテーション	
小テスト	20%		スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)			ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	20%		教室外学習	
その他			その他	

テキスト	実践に生かす障害児保育 萌文書林
参考文献・推薦図書	障害児保育 障害のある子どもから考える教育・保育久保田茂雄・小田豊編集 光生館
関連のある授業科目	社会的養護Ⅰ・社会的養護Ⅱ
資格等	保育士資格 ・ 幼稚園教諭

科目名

子育て支援

《1単位(演習)／幼児保育学科2年後期》

担当者

宮崎 由紀子

実務経験

授業の概要

保育士の役割としては、子どものケアのみならず保護者への支援が業務として法的にも位置づけられている。
授業においては、保育士の専門性に基づく子育て(保護者)支援について理解し、日常的な保育や様々な地域場面においての相談支援について概説する。あわせて、前期で学んだ「こども家庭支援論」を相談援助として具体化していく基本的スキルを学んでいく。

到達目標

・保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援について、その特性と展開を具体的に理解する。
・保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する

事前事後学習

事前学習として、次回授業に該当するテキストについて通読しておくこと。
事後学習として、保育実習、教育実習等で見聞きした現場保育士の相談支援を材料として自身の保育士としての課題について振り返りを実施する。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
Ⅰ	保育者としての基礎的な教養の修得	
Ⅱ	保育者としての基礎的な技能の修得	
Ⅲ	保育及び援助の目的の理解	
Ⅳ	保育及び援助の対象の理解	
Ⅴ	保育及び援助の方法の理解	○

授業実施方法

	講義	演習	実験	実習	実技
		○			○
試験実施の有無	実施する ○	実施しない			

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	保育と保護者支援
2		2	保護者との相互理解と信頼関係
3		3	支援ニーズへの理解と多面的な理解
4		4	子ども・保護者が多様な他者と関わる場の提供
5		5	支援の展開(状況・状態の把握)
6		6	支援の展開(計画)
7		7	支援の展開(実践・記録・評価・カンファレンス)
8		8	支援の展開(職員間の連携・協働)
9		9	支援の展開(関係機関との連携・協働)
10		10	支援の内容と方法(保育所)
11		11	支援の内容と方法(地域)
12		12	支援の内容と方法(障害のあるこどもと家庭)
13		13	支援の内容と方法(特別な配慮のあるこどもと家庭)
14		14	子ども虐待の予防と対応
15		15	多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解

授業外学習内容とその時間	事後学習としては、授業内で配付した資料・ワークについて復習を行う(2時間)		
課題のフィードバック方法	フィールドについては、授業内で全体と共有しながら適宜行う。		
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験		ディスカッション	
レポート	70%	プレゼンテーション	
小テスト		スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)	10%	ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	20%	教室外学習	
その他		その他	

テキスト	『こどもと保護者に寄り添う「子育て支援」』 晃洋書房
参考文献・推薦図書	随時、紹介する
関連のある授業科目	社会福祉、子ども家庭支援論、こども家庭福祉
資格等	保育士資格

科目名

保育実習指導 I

《2単位(演習)／幼児保育学科1年通年／保育士必修》

担当者

田邊裕子・宮崎由紀子・田中優也

実務経験

授業の概要

保育実習 I に臨むに当たり、実習に関する事前、事後指導を行う。
保育実習の意義・目的、内容を理解し、実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に学ぶ。さらに、実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行う。

到達目標

- ・保育実習の意義・目的を理解する。
- ・実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。
- ・実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。
- ・実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。
- ・実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。

事前事後学習

社会の中で働くことや保育士の社会的役割についてそれぞれ考え、学んでおくこと。特に、社会的なマナーを意識して日常生活を過ごし、現場で実習に取り組ませていただく姿勢を培うようにしてほしい。また、実習の手続き、流れを十分に理解しておいてほしい。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下の I ~ V の5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
I	保育者としての基礎的教養の修得	
II	保育者としての基礎的技能の修得	○
III	保育及び援助の目的の理解	
IV	保育及び援助の対象の理解	
V	保育及び援助の方法の理解	

授業実施方法

	講義	演習	実験	実習	実技
	○	○			○
試験実施の有無	実施する	実施しない			
		○			

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	授業オリエンテーション(授業概要の説明)	16	観察実習と責任実習の違い・実習記録の記入方法
2	実習の意義・目的	17	実習記録の振り返り
3	保育士の職務と1日の流れ(1)(保育所・未満児)	18	先輩からの実習体験談
4	保育士の職務と1日の流れ(2)(保育所・以上児)	19	実習生調書の書き方,本実習の目標の立て方
5	保育士の職務と1日の流れ(3)(児童養護施設,乳児院)	20	本実習の目標の記入方法
6	保育士の職務と1日の流れ(4) (肢体不自由児施設,重症心身障害児施設)	21	保育所の実習記録の記入方法
7	保育士の職務と1日の流れ(5) (知的障害児施設, 盲ろうあ児施設)	22	施設の実習記録の記入方法
8	実習の種類・内容	23	省察の書き方と実習記録のまとめ
9	実習の目標と実習の心得	24	教材研究(2)(夏休み課題の発表 I)
10	保育所実習の心得	25	教材研究(3)(夏休み課題の発表 II)
11	施設実習の心得	26	教材研究(4)(夏休み課題の発表 III)
12	実習記録の記入方法の概要と記入例	27	実習オリエンテーション(2)(訪問マナー II)
13	教材研究(1)(夏休み課題の説明)	28	実習直前指導・実習上の守秘義務と職業倫理他
14	実習オリエンテーション(1)(訪問マナー I 他)	29	実習における実践・観察・記録・評価の方法の理解
15	観察実習事前指導	30	実習事後指導(実習反省会用の資料説明)

授業外学習内容とその時間				
課題のフィードバック方法				
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無	
定期試験		ディスカッション		
レポート		プレゼンテーション		
小テスト		スピーチ		
発表(プレゼン・スピーチ等)	60%	ロールプレイ		
平常点・授業への貢献度	40%	教室外学習		
その他		その他		

テキスト	「保育実習・教育実習のてびき」「保育所保育指針」の他、随時資料を配布
参考文献・推薦図書	随時紹介する。
関連のある授業科目	保育実習 I
資格等	保育士資格

科目名

保育実習指導Ⅱ

《1単位(演習)／幼児保育学科2年通年／保育士選択必修》

担当者

田邊裕子・宮崎由紀子・田中優也

実務経験

授業の概要

保育実習Ⅰの経験を踏まえ、保育の観察、記録、計画、実践など保育について総合的に学ぶ。保育の表現技術を生かした保育実践力を高めるため、教材の研究や指導計画に基づいた保育実践を行う。また、既習の教科との関連性を踏まえ、子どもの保育と保護者支援について具体的に考える。なお、実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行う。

到達目標

- ・保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。
- ・実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。
- ・保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。
- ・保育士の専門性と職業倫理について理解する。
- ・実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。

事前事後学習

保育実習指導Ⅰの授業資料を振り返り、講義や演習の内容を整理しておくこと。
 毎授業の前に、必ずテキストの当該箇所を読んでおくこと。
 模擬保育に向けて、子どもの遊びや生活に関する資料収集や準備(教材作りなど)及び指導案の作成と見直しを行うこと。
 授業後には自分・他者の指導案を見直し、改善点などについて考察すること。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
Ⅰ	保育者としての基礎的教養の修得	
Ⅱ	保育者としての基礎的技能の修得	○
Ⅲ	保育及び援助の目的の理解	
Ⅳ	保育及び援助の対象の理解	
Ⅴ	保育及び援助の方法の理解	

授業実施方法	講義	演習	実験	実習	実技
	○	○			○
試験実施の有無	実施する	実施しない			
		○			

授業計画(項目・内容)

回	前期・後期(通年中15回)	回	
1	授業オリエンテーション		
2	実習の意義・目的		
3	実習生調書・本実習の目標の書き方		
4	実習記録の書き方(保育実習Ⅰの実習記録を基に)		
5	指導案の作成方法と子ども理解		
6	教材研究(1) 模擬設定保育(主活動)		
7	教材研究(2) 模擬設定保育(朝・帰りのお集まり)		
8	教材研究(3) 模擬設定保育(主活動への導入)		
9	教材研究(4) 模擬設定保育(主活動)		
10	保育における表現技術の実践1		
11	実習オリエンテーション		
12	実習の振り返りと改善点		
13	保育士の専門性と職業倫理		
14	保育における表現技術の実践2		
15	実習のまとめと今後の課題		

授業外学習内容とその時間				
課題のフィードバック方法				
	成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
	定期試験		ディスカッション	
	レポート		プレゼンテーション	
	小テスト		スピーチ	
	発表(プレゼン・スピーチ等)	60%	ロールプレイ	
	平常点・授業への貢献度	40%	教室外学習	
	その他		その他	

テキスト	「保育実習・教育実習のてびき」「保育所保育指針」の他、随時資料を配布
参考文献・推薦図書	「教育・保育課程論 書いて学べる指導計画」 岩崎淳子他萌文書林
関連のある授業科目	保育実習Ⅱ、保育実践演習
資格等	保育士資格

科目名

保育実習指導Ⅲ

《1単位(演習)／幼児保育学科2年前期／保育士選択必修》

担当者

宮崎由紀子・田邊裕子・田中優也

実務経験

授業の概要

児童福祉施設等(保育所以外)で実習に臨むにあたって、必要となる知識や技術、倫理について学ぶ。特に、施設の機能や役割について理解を深め、そのうえで保育実習Ⅲを実施する意義と目的を説明できるようにする。保育実習Ⅰ(施設)での学びを生かしながら子どもも理解し家庭支援、保護者支援の必要性とそのスキルを身に付け施設保育士としての専門性について理解を深める

到達目標

- ・施設実習の意義と目的について考察し、保育の理解を深められるようにする。
- ・専門科目の学びの内容と関連を踏まえて、保育の実践力の取得を目指す。
- ・保育実習Ⅰに参加しての疑問や反省点について改善を目指す。
- ・施設保育士としての専門性や職業倫理の理解することを目指す。

事前事後学習

児童福祉施設等(保育所以外)の専門的知識を深めるため、保育実習指導Ⅰおよび保育実習Ⅰ(施設)の振り返りを行っておくこと。また、子どもとその家庭における現状を理解するためニュース等の情報を捉えておくこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
I	保育者としての基礎的教養の修得	
II	保育者としての基礎的技能の修得	
III	保育及び援助の目的の理解	○
IV	保育及び援助の対象の理解	○
V	保育及び援助の方法の理解	○

授業実施方法

	講義	演習	実験	実習	実技
		○			○
試験実施の有無	実施する	実施しない			
	○				

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	施設実習オリエンテーション		
2	児童福祉施設等の役割と機能		
3	社会的養護の新しい考え方		
4	障害児の支援		
5	児童福祉施設における記録		
6	児童福祉施設における支援事例		
7	受容・共感などの支援スキル		
8	子どものニーズ把握と理解(アセスメント)		
9	個別支援計画		
10	子どもの家族に関する理解と支援		
11	施設における専門職と連携と協働		
12	地域における連携・協働		
13	保育士業務と職業倫理		
14	自己省察と課題の明確化		
15	まとめ		

授業外学習内容とその時間	調べもの学習があるため図書館等の利用やインターネットの活用も積極的に行う。ただし、その利用については、リテラシーを厳守することが大切である。		
課題のフィードバック方法	課題のフィードバックについては、個別に面談をすると同時に受講者全員で共有を行う。		
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験		ディスカッション	有
レポート		プレゼンテーション	有
小テスト		スピーチ	有
発表(プレゼン・スピーチ等)	60%	ロールプレイ	有
平常点・授業への貢献度	40%	教室外学習	
その他		その他	

テキスト	『新版 保育・幼児教育のフロンティア』
参考文献・推薦図書	随時、紹介する
関連のある授業科目	社会福祉、社会的養護、こども家庭支援論
資格等	保育士資格

科目名

こどもの音楽遊び

《1単位(演習)/幼児保育学科2年前期/選択》

担当者

田邊裕子

実務経験

授業の概要

子ども一人ひとりの成長・発達の特性に合った表現活動ができる保育者を目指すために、創造豊かな音楽遊びが展開できる感性豊かな保育者を育てることを目的とする。
 幼児期における生活と遊びの中で創造的・即興的な表現活動を通して、発展的な展開方法や指導方法を学ぶ。豊かな感性や表現する力を養うために、基礎的な音楽の知識や技術を習得し、保育現場で応用できるこどもの音楽遊びを研究する。個人およびグループによる主体的な活動に取り組むことにより、こどもの発達・成長に応じた音楽遊びの展開方法を学び実践する。

到達目標

- ・子どもの生活や遊びを通して実践する音楽活動を理解する。
- ・子どもの成長に合わせた音楽遊びの工夫や指導方法を習得する。
- ・グループ活動における学生相互の学び合いにより、主体的な音楽遊びの展開ができる。

事前事後学習

毎回の授業課題の準備のために、前もってピアノの弾き歌いなどの練習等を重ねることが必要である。日頃から子どもの音楽遊びに対する興味を持ち事例を収集しておくこと。
 授業後には、課題のために準備した資料や作品を整理しまとめておくこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	左記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
I	保育者としての基礎的教養の修得	
II	保育者としての基礎的技能の修得	
III	保育及び援助の目的の理解	
IV	保育及び援助の対象の理解	
V	保育及び援助の方法の理解	○

授業実施方法

講義	演習	実験	実習	実技
	○			○

試験実施の有無

実施する	実施しない
○	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション	1	
2	こどもの生活と音楽あそび	2	
3	園の行事と音楽活動	3	
4	手づくり楽器とこどもの遊び	4	
5	季節(春)の歌あそび	5	
6	季節(夏)の歌あそび	6	
7	季節(秋)の歌あそび	7	
8	季節(冬)の歌あそび	8	
9	ハンドベル演奏(世界の名曲1)	9	
10	ハンドベル演奏(世界の名曲2)	10	
11	こどもの遊びと楽器	11	
12	楽器あそび(合奏1)	12	
13	楽器あそび(合奏1)	13	
14	音楽遊びのグループ発表	14	
15	まとめと振り返り	15	

授業外学習内容とその時間	毎回の授業計画に合わせて予習をしておくこと。授業後は、内容をまとめ復習し、次回授業に備える。各自専用ファイルを用意し、授業で配布したプリントや楽譜類を綴じ整理すること。		
課題のフィードバック方法	個人やグループによる課題発表体験により、相互評価・自己評価結果のシェアリングによって、成果と課題を可視化する。		
成績評価方法	評価割合		アクティブラーニング
定期試験			ディスカッション
レポート			プレゼンテーション
小テスト			スピーチ
発表(プレゼン・スピーチ等)	50%		ロールプレイ
平常点・授業への貢献度	50%		教室外学習
その他			その他

テキスト	適宜、資料や楽譜を配布する。
参考文献・推薦図書	「保育者のためのピアノレッスン」清原貴子 鷺尾領子編著 権歌書房 「幼児のための音楽教育」神原雅之・鈴木恵津子編著 教育芸術社 「日本の子どもの歌」全国大学音楽教育学会編著 音楽之友社
関連のある授業科目	基礎音楽AB こどもと表現 I 保育内容【表現 I】
資格等	

科目名

こどもの造形遊び

《1単位(演習)／幼児保育学科2年前期／保育総合コース選択》

担当者

森本直樹

実務経験

授業の概要

造形遊びは、領域全体を包括するものとされている。乳幼児の活動は、主体的な学びとなるように促し、環境の関わりを持ち、遊びを通して自ら経験をすることで、ものごとを発見し、創造的な表現力を養うことが必要とされる。ここでは、豊富な素材・材料経験や保育者の感性を豊かにし、表現法及び支援・援助法などを理解して保育実践力を習得することを目標とする。

到達目標

- ・造形遊びの意義と目的を理解する。
- ・素材、材料の持つ特性や魅力を探求し、自分なりに表現することを理解する。
- ・身近な場所や空間において、五感を認識して造形活動を行うことを理解する。
- ・実際に保育現場で役に立つ表現技法、保育技術の基礎を習得する。

事前事後学習

- ・指定された用具を持参すること。
- ・造形表現活動に関する題材や資料の収集をすること。
- ・授業内に作品が仕上がらない場合は、指定する期限までに完成させること。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている	
5	保育者としての基礎的な教養の修得	
6	保育者としての基礎的な技能の修得	
7	保育及び援助の目的の理解	
8	保育及び援助の対象の理解	
9	保育及び援助の方法の理解	○

授業実施方法

講義	演習	実験	実習	実技
○	○			

試験実施の有無

実施する	実施しない
	○

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション: 造形遊びの概要	16	
2	造形遊びの基礎: 素材・材料の研究	17	
3	造形遊びの基礎: 構成遊び①(計画)	18	
4	造形遊びの基礎: 構成遊び②(展開)	19	
5	造形遊びの基礎: 構成遊び③(発表)	20	
6	造形遊びの基礎: 材料遊び①(素材研究)	21	
7	造形遊びの基礎: 材料遊び②(描く)	22	
8	造形遊びの基礎: 材料遊び③(作る)	23	
9	造形遊びの基礎: 材料遊び④(指導案、発表)	24	
10	造形遊びの基礎: 模倣遊び①(計画)	25	
11	造形遊びの基礎: 模倣遊び②(展開、発表)	26	
12	造形遊びの基礎: 操作遊び①(計画)	27	
13	造形遊びの基礎: 操作遊び②(展開)	28	
14	造形遊びの基礎: 操作遊び③(発表)	29	
15	まとめ: 振り返り(ワークシート、レポート作成)	30	

授業外学習内容とその時間	毎回の授業計画に合わせて教科書を使い予習・復習を1時間程度しておく。			
課題のフィードバック方法	課題作品完成後、作品、ワークシートなどのポートフォリオを作成しておくこと。ポートフォリオの作成については、授業内で説明をする。			
成績評価方法	評価割合		アクティブラーニング	有無
定期試験			ディスカッション	有
レポート	20%		プレゼンテーション	有
課題等提出物	50%		スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)	20%		ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	10%		教室外学習	有
その他			その他	

テキスト	『幼児造形の基礎-乳幼児の造形表現と造形教材-』 編著 樋口一成 萌文書林 2018
参考文献・推薦図書	『新造形表現 実技編』 編著 花篤 實・岡田愨吾 三晃書房 2013
関連のある授業科目	保育実習指導法、保育内容(全教科)など
資格等	幼稚園教諭二種免許・保育士資格

科目名

幼児造形

《1単位(演習)／幼児保育学科2年後期／保育総合コース選択》

担当者

森本直樹

実務経験

授業の概要

乳幼児の発達において素朴な造形表現を見出すことは、保育者の受け止め方により、幼児に与える反応に違いが出てくる。幼児に豊かな感性や創造性を育むためには、表現することの楽しさを実感させる必要がある。また、生み出す要因について学び、分析する必要がある。生活の中からの経験からは、五感でものごと捉え、素材の持つ特性を生かし、保育者自身の体験により学んだ感覚により、幼児の表現力を高めることができる。また協同活動を体験することでコミュニケーション能力を身につける。

到達目標

- ・乳幼児の発達に於ける造形活動を理解する。
- ・領域「表現」における活動内容について位置付けができる。
- ・自ら、表現することの楽しさを実感し、楽しさから生まれる要因について分析する。
- ・様々な表現法の基礎的な知識・技能を生かし、幼児の表現活動に展開できる。
- ・協働して表現することに、他者の意見などに共感し、豊かな感性について理解する。

事前事後学習

- ・指定された用具を持参すること。
- ・造形表現活動に関する題材や資料の収集をすること。
- ・授業内に作品が仕上がらない場合は、指定する期限までに完成させること。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている	
5	保育者としての基礎的教養の修得	
6	保育者としての基礎的技能の修得	
7	保育及び援助の目的の理解	
8	保育及び援助の対象の理解	
9	保育及び援助の方法の理解	○

授業実施方法

講義	演習	実験	実習	実技
○	○			○

試験実施の有無

実施する	実施しない
	○

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	オリエンテーション:乳幼児の発達と造形表現
2		2	心象表現活動①:平面共同制作(計画)
3		3	心象表現活動①:平面共同制作(展開)
4		4	心象表現活動①:平面共同制作(展開)
5		5	心象表現活動①:平面共同制作(発表)
6		6	保育実践:製作に関する模擬保育(計画)
7		7	保育実践:製作に関する模擬保育(実践)
8		8	表現活動①:平面表現(計画)□
9		9	表現活動②:平面表現(展開)□
10		10	表現活動③:平面表現(展開)□
11		11	表現活動④:平面表現(発表)□
12		12	立体表現活動①:紙粘土を使って(計画)
13		13	立体表現活動①:紙粘土を使って(展開)
14		14	立体表現活動①:紙粘土を使って(発表)
15		15	まとめ:振り返り(ワークシート、レポート作成)

授業外学習内容とその時間	毎回の授業計画に合わせて教科書を使い予習・復習を1時間程度しておく。		
課題のフィードバック方法	課題作品完成後、作品、ワークシートなどのポートフォリオを作成しておくこと。ポートフォリオの作成については、授業内で説明をする。		
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験		ディスカッション	有
レポート	20%	プレゼンテーション	有
課題等提出物	50%	スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)	20%	ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	10%	教室外学習	
その他		その他	

テキスト	『幼児造形の基礎-乳幼児の造形表現と造形教材-』 編著 樋口一成 萌文書林 2018
参考文献・推薦図書	『新造形表現 実技編』 編著 花篤 實・岡田愨吾 三晃書房 2013
関連のある授業科目	保育実習指導法、保育内容(全教科)など
資格等	幼稚園教諭二種免許・保育士資格

科目名

こどもの遊びと運動学

《1単位(演習)／幼児保育学科2年前期／選択必修》

担当者

小林宜義

実務経験

保育園での実践指導

授業の概要

この講義では、コーディネーション運動を通じ、運動に親しむ資質を高めていくと共に、跳び箱や縄跳び運動などの動きの原理原則を学んでいきます。また、幼児期における活発な運動遊びが、その後の児童期・青年期の心身の発達にどのような影響を及ぼしていくかについても学んでいきます。

到達目標

こどもの内発的動機を引き出し、身体能力・非認知能力を高める指導法を習得する。

事前事後学習

講義中に実施する課題に対応するため、配布資料や推薦図書の読み込み、予習・復習を行なって下さい。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	現代の子どもの体力・運動能力	
2	幼児期の活発な運動遊びの重要性	
3	内発的動機づけを育む力	
4	幼児期の発育発達に対する理解	
5	幼児期の運動能力の変化に対する理解	
6	社会における保育者の役割	○
7	コミュニケーション能力	○
8	動作観察能力	
9	動作分析能力	
10	動作問題解決能力	

授業実施方法

講義	演習	実験	実習	実技
	○			○

試験実施の有無

実施する	実施しない
○	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション	1	
2	こどもの身体能力を高める運動あそび①	2	
3	こどもの身体能力を高める運動あそび②	3	
4	幼児期運動指針について①	4	
5	幼児期運動指針について②	5	
6	こどもの運動発達について	6	
7	支援児と運動の関係について	7	
8	これまでの振り返り	8	
9	キッズコーチング①	9	
10	キッズコーチング②	10	
11	非認知能力の獲得と運動の関係について①	11	
12	非認知能力の獲得と運動の関係について②	12	
13	指導案作成①	13	
14	指導案作成②	14	
15	講義のまとめ	15	

授業外学習内容とその時間	毎回レジメを配布し、実施したプログラムをノートしますので、それらを利用して予習・復習をして下さい。授業外学習時間として、1回の講義あたり30分程度を目安として行なって下さい。			
課題のフィードバック方法	提出されたレポートを添削します。その内容について理解を深めて下さい。			
成績評価方法		評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験		50%	ディスカッション	有
レポート		20%	プレゼンテーション	
小テスト			スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)			ロールプレイ	有
平常点・授業への貢献度		30%	教室外学習	
その他			その他	

テキスト	随時資料を配布する。
参考文献・推薦図書	北大路書房:デジタル社会の子どもの育ちを支える「保育内容健康」第15章:多様な動きを経験するコーディネーション運動
関連のある授業科目	保育内容【健康】
資格等	保育士資格

科目名

臨床心理学

《2単位(演習)／幼児保育学科2年通年／選択必修》

担当者

守田典子

実務経験

授業の概要

臨床心理学の基本知識を踏まえながら、カウンセリング、エンカウンターの基本と要点を解説したい。ピアヘルピングとして日常に心理学の知識を応用、活用できることを目指す。この授業はピアヘルパー資格試験を受験するための必須科目である。

到達目標

・「こころ」に触れる際の理解の仕方、大切な心構え、知識と技術の習得
 ・ピアヘルピングの技術とプロセスの習得
 ・演習活動を通してピアヘルパーとしての自己の鍛錬

事前事後学習

・講義後の振り返りをまとめる
 ・ピアヘルパーとして自己の実践をイメージし、疑問点を整理し、調べるなど自己学習を進める

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
I	保育者としての基礎的な教養の修得	
II	保育者としての基礎的な技能の修得	
III	保育及び援助の目的の理解	
IV	保育及び援助の対象の理解	○
V	保育及び援助の方法の理解	

授業実施方法	講義	演習	実験	実習	実技
	○	○			
試験実施の有無	実施する	実施しない			
	○				

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション	16	構成的グループエンカウンター演習1
2	臨床心理学とカウンセリングとは	17	構成的グループエンカウンター演習2
3	構成的グループエンカウンター	18	カウンセリング理論1
4	カウンセリングの定義・略史・必要性	19	カウンセリング理論2
5	カウンセリングの種類、関係領域	20	カウンセリング理論3
6	ピアヘルピングのプロセス	21	カウンセリング演習1
7	ピアヘルパーのパーソナリティ	22	カウンセリング演習2
8	カウンセリングの動向	23	カウンセリング演習3
9	カウンセリングのスキル1	24	青年期の課題とピアヘルピング演習1
10	カウンセリングのスキル2	25	青年期の課題とピアヘルピング演習2
11	カウンセリングのスキル3	26	青年期の課題とピアヘルピング演習3
12	カウンセリングのスキル4	27	ピアヘルピング演習
13	ヘルパーの心構えと上達法	28	ピアヘルパー対策①
14	青年期の課題とピアヘルパーの留意点1	29	ピアヘルパー対策②
15	青年期の課題とピアヘルパーの留意点2	30	後期まとめ(小テスト)

授業外学習内容とその時間				
課題のフィードバック方法				
	成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
	定期試験	60%	ディスカッション	有
	レポート		プレゼンテーション	
	小テスト	20%	スピーチ	
	発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	有
	平常点・授業への貢献度	20%	教室外学習	
	その他		その他	

テキスト	「ピアヘルパーハンドブック」「ピアヘルパーワークブック」日本教育カウンセラー協会編 図書文化
参考文献・推薦図書	随時紹介する。
関連のある授業科目	保育の心理学Ⅱ、保育臨床相談
資格等	ピアヘルパー

科目名

こどもの発達障害

《1単位(演習)／幼児保育学科2年前期／保育士選択必修・幼免選択》

担当者

金戸憲子

実務経験

有(元幼稚園教諭)

授業の概要

現在の保育・教育現場において、非常に関心が高まっている発達障害の特徴や支援のあり方について、詳しく取り上げる。彼らとよい関係を築くうえでのポイントなどを紹介し、子どもの育ちの支援において、実践的かつ有益な知見を得る機会も提供したい。

到達目標

・該当授業回のテキストの関連箇所や配布する資料を授業回前後に読み、理解を深めながら取り組むこと。子どもの障がい(発達・精神)について、心理学や療育現場における知見を学ぶ。
・障がい児への具体的支援について理解を深める。

事前事後学習

・該当授業回のテキストの関連箇所を授業回前後に読み、理解を深めながら取り組むこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	見学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	左記の3つの学習成果は以下のI～Vの5つの要素から構成される
3	各種実習や専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている	
I	保育者としての基礎的教養の習得	
II	保育者としての基礎的技能の習得	
III	保育及び援助の目的の理解	
IV	保育及び援助の対象の理解	○
V	保育及び援助の方法の理解	

授業実施方法

講義	演習	実験	実習	実技
○	○			

試験実施の有無

実施する	実施しない
○	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション(講義の目的と目標)、発達障害とは何か	16	
2	発達障害の特徴	17	
3	自閉スペクトラム症とは何か・社会性の特徴	18	
4	自閉スペクトラム症とは何か・こだわり・常同行動とは	19	
5	ADHDとは何か・不注意・多動性の特徴	20	
6	ADHDとは何か・衝動性・学齢前～学齢後の特徴	21	
7	LDとは何か・LDの特徴	22	
8	LDとは何か・「読むこと」の発達	23	
9	LDとは何か・「書くこと」の発達	24	
10	LDとは何か・「計算すること」の発達	25	
11	LDとは何か・推論の発達・学齢前～学齢後の特徴	26	
12	知的障害とは何か	27	
13	ダウン症の特徴	28	
14	発達障害を対象とした支援方法	29	
15	発達障害の支援で大切なこと・講義全体のまとめ	30	

授業外学習内容とその時間	前回の講義内容を理解し、障害の特徴について説明できるようにしておく(目安時間:各回約2時間)		
課題のフィードバック方法	毎回の講義において、講義内容に関するテーマで簡単なレポートを作成し、提出する。		
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験		ディスカッション	有
レポート	60%	プレゼンテーション	有
小テスト		スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)	30%	ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	10%	教室外学習	
その他		その他	

テキスト	「子どもの発達障害と支援のしかたがわかる本」、西永堅 著、日本実業出版社
参考文献・推薦図書	「こんなとき、どうする？発達障害のある子への支援 幼稚園・保育園」内山登紀夫監修、ミネルヴァ書房 「キーワードブック特別支援教育」玉村公二彦他編、クリエイツかもがわ
関連のある授業科目	障害児保育、特別支援教育論
資格等	保育士資格